

平成 24 年度卒業研究Ⅱ報告書

「二色配色の感情効果と性格特性の関係」

東洋大学 総合情報学部

秦結希奈

松井恵子

出口亜美

指導教員 加藤千恵子

副査教員 杉本富利

副査教員 土田賢省

目次

第1章	はじめに	4
第2章	色彩	5
2.1	色彩とは	5
2.2	色光の3原色	5
2.2.1	色光の3原色(R. G. B)の見え方	6
2.2.2	色材の3原色(C. M. Y)の見え方	6
2.3	色彩と感性の関係	7
2.3.1	赤は共通で血液や炎をイメージ	7
2.3.2	黄色は光のイメージ	7
2.3.3	緑は植物・葉のイメージ	7
2.3.4	青はバリエーションが多様	8
2.3.5	紫は特に日本では意味合いの強い色	8
2.3.6	白は全ての光の色の波長を跳ね返す色	8
2.3.7	黒は全ての光を吸収する色、全ての色の要素を内包	9
2.3.8	ピンクは青春、情熱、愛情を連想させる	9
2.3.9	オレンジは波動、躍進、力強さを連想させる	9
2.4	男女の色彩嗜好の差	10
2.4.1	女性がうっとりする色	10
2.4.2	男性が惹きつけられる色	11
2.5	色を表す仕組み	13
2.5.1	色の三属性	13
2.5.2	表色系の彩度	13
2.6	補色	14
2.7	色彩対比	14
2.7.1	色相対比	14
2.8	二色配色	15
2.8.1	二色配色とは	15
2.8.2	二色配色の種類	15
2.8.3	その他の配色	16
第3章	うつ病	17
3.1	うつ病とは	17
3.1.1	うつ病について	17
3.1.2	うつ病の受診率	17
3.1.3	うつ病の症状になりやすい人	17

第4章 研究方法	18
4.1 調査方法.....	18
4.1.1 調査方法について.....	18
4.1.2 調査対象.....	18
4.2 二色配色の印象評価.....	18
4.2.1 質問紙.....	18
4.2.2 二色配色のスライド.....	19
4.3 YG 性格検査.....	19
4.3.1 YG 性格検査について.....	19
4.3.2 YG 性格検査から分類できる5つの型.....	20
4.4 二色配色の好き嫌いアンケート.....	21
4.5 分析方法.....	21
第5章 結果	22
5.1 因子分析結果.....	22
5.2 二色配色の好き嫌いアンケート.....	46
第6章 考察	51
第7章 まとめ	52
第8章 今後の課題	53
謝辞.....	54
参考文献.....	55

第1章 はじめに

現在、色彩感情の効果が注目されている。高橋らの論文[1]では色がもたらす感情効果を利用し、閲覧者に意図した感情を想起させ癒しの効果をもたらす映像作品についての研究がおこなわれた。また、伊東らの論文[2]では2色配色の効果についてSD法を用いて研究がおこなわれその結果、色相関のうち黄色、緑色、青色が他の色相と調和しやすく赤と橙が調和しにくいことが分かった。しかし、どちらの研究も個人の特性についてまで言及しておらず客観性にやや欠ける。そのため本研究では2色間の配色関係とYG性格検査を用いて性格との相関をとり、個人の性格により二色配色に対するニーズが異なるのではないかという内容を検討していく。

第2章 色彩

2.1 色彩とは

人が眼で捉えている事象は、全て「光」によってもたらされている。光には「波長」があり、その中でも人間に見えるものを「可視光線」と呼ぶ。大きく分けると「電磁波」になるが、可視光線である虹色は赤から始まり紫で終わる。これ以上の光が見えることはない。赤の波長より長いものを赤外線、紫の波長より短いものを紫外線と言う。他にも電波やX線、遠赤外線等も同じ部類になる。では、可視光線の中にある色と何か。「物体が見える」のは、光が当たっているからである。その中でも特定の波長のみ反射し、残りの波長を吸収する事によって、その波長に対する色に見える。例えば、レモンが黄色いのは、黄色い光の波長を跳ね返し、それ以外の波長を吸収しているため人間の目には「黄色」に見える。

昆虫の中では色に反応し、繁殖行動を起こすなど本能の中に「色の選択」が組み込まれている場合もある。しかし、生き物の中でもとりわけ脳が発達し、高度な感情・知能を持った人間は自分の個性と意思により色を選択できる。文化が産声を上げた頃より色は人間の「意志」により使い分けされている。例えば、古代遺跡の彫刻や洞窟の壁画にも色は使用されている。また、黄色は中国の皇帝にしか使えない高貴な色とされていた。この様に人間にとって「色」は権力・階級の象徴に迄なりうる程、大きな影響を与える要素である。色の正体は光であり生命に必要不可欠なものだ。高度な知能を持つ人間は、固有の個性を保有しているが、いつもニュートラルな状態にいる事はない。自分の意識・感情・体調等、喜怒哀楽によって、その時々状態が変わる。つまり、その時の自分の生命維持に必要な色＝光を選択出来る。例えば、戦いに挑む前、勝負をかける程の勢いがある時は赤や黒などはっきりした攻撃的な印象を持つ色を選択し、ゆったりした時はナチュラル系の穏やかな印象を持つ色を選択する傾向がある。また、疲れている時に派手な原色ではなく無意識に落ち着いた色を選択する傾向がある。

これは、意識的には勿論、自分自身の生命維持にとって最も必要なものを無意識に自身の脳が選択しているためだ。特に現代人は便利な文明と引き換えに、様々なストレスや体調不良をも抱えて生きている。自律神経失調症に光や色を用いた治療法が確立しているように、光や色の持つ力を生かす事が、今こそ必要だといえるのではないか。

上記の説明の通り、色は生命維持にも深いかわりがあると考えてよいだろう。その為、「マイナス部分」になっている部分を、色の持つ作用を使い「ニュートラルな状態」に戻す事が出来る＝カラーセラピーが存在する。もう一つ、人間は無意識に自分に必要な色を、その時々で選択できるだけでなく、感情や体調そのものを表現する為に色を選択する事も出来る。例えば、内戦や災害に遭った子供達に絵を描かせると、くすんだ色や暗い色を使用し、寒色系や血の色を使い表現する。また、絵そのものも暗い絵が多く見受けられる。病気で入院している子供は、黒色や紫色を多用する場合がある。これらは、心象風景・体

調から表現されている色や、モチーフであったりする訳である。体調の悪い場合は、自分に必要な色(例えば、紫「癒しの色」)を選択する場合もある。心や体のケアをしていく中で、絵のモチーフが変わり、使用する色も明るく暖色系を使うようになる。また、こうした「絵を書かせる」「色を選択させる」事を続けていく事により心や体のケアそのものにもなる。

2.2 色光の3原色

2.2.1 色光の3原色(R.G.B)の見え方

色光の3原色(R,G,B)の見え方：色光の3原色は赤、緑、青である。略語のRGBで表す。他の色はこの3原色を混色することによってできる。そして光の混色は、色を混ぜれば明るさが明るくなり、RGB全部を混色すると白い色になる。ここに黄色いレモンがあったとして、自然光や人工光の白色光は、レモンという物体に当たると、3原色のうち、青(B)の波長のみが吸収され、後の赤(R)と緑(G)の波長を反射する。同時に反射した赤と緑は、眼の中で混色して、黄(Y)に知覚するのである。私たちは、常に3原色か、その混色した波長の光を見ていることになる。

2.2.2 色材の3原色(C.M.Y)の見え方

色材の3原色は「シアン(Cyan)」「マゼンタ(Magenta)」「イエロー(Yellow)」の3色で、略語のCMYで表す。シアンは物体で赤い光が吸収され、緑と青の光が反射して見える光である。マゼンタは緑の光が吸収され、赤と青の光が反射すると見える色である。また、イエローは物体で青の光が吸収され、赤と緑の光が反射した色である。色材の混色は、色を混ぜれば混ぜるほど、次第に暗くなっていくのが特徴である[3]。

2.3 色彩と感性の関係

2.3.1 赤は共通で血液や炎をイメージ



図1 赤の参考画像

激しい炎の色と言われている赤は、情熱的で攻撃的、としての印象が強い。顔が赤くなるほどの怒り、危険を表す赤信号など、人間が注意警告をする、または受ける色である。自分で意識的に動かしていない心臓をはじめとする内臓系の動きなどの活発化も交感神経の働きである。この交感神経が通常「赤」で表されていると共に、この神経は赤色に反応する事が実験で立証されている。赤色で自分の内面を表す場合、健康的で内面からの溢れるエネルギーを表現するにはビビッドで透明感のある赤を選び、危機感を表す場合血の色に似たやや暗めな赤を選ぶ。

2.3.2 黄色は光のイメージ

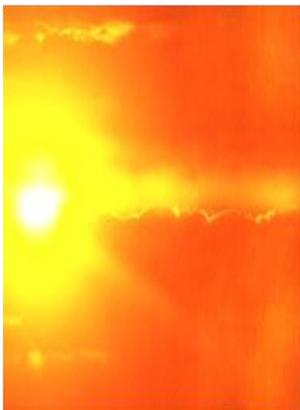


図2 黄色の参考画像

暖色の中でも最も明るく、光の印象の連想から来る黄色は、生命の躍動感・上昇志向・希望・やる気・満足など前向きで期待感がある印象が強い。そのことから、全てが上手く行くような感情を持つことができる色である。子供が自分に注目して欲しい時に良く用いる色であり、子供もよく好まれる色でもある。この事から甘えたい、幼児期にとどまり愛される期待を持ち続けたい願望の現れとも考えられる。また、黄色は五感に働きかけ、ユーモアとユニークさを表現する色でもあり、デートで告白する際には、黄色はやめた方がよいとされている。

2.3.3 緑は植物・葉のイメージ



図3 緑の参考画像

森や植物から連想する緑は、ストレス解消に繋がり、可視光線の波長の中で中間にあたる色でもある。このバランスが安定感を与え、人をより安心させる効果がある。緑は黄色と青を混ぜた色でもある。明るく朗らかでプラス志向の黄色、それと正反対の沈み込み・物悲しい印象の青。この2つの要素が、バランス良くミックスされた状態、つまり緑はバランスがとれており、安心・安全・癒しを現す色と言える。また緑は安全という印象があり、植物の葉が緑なのは動物達が安心して食せるからであり、若いものほど鮮やかな緑色である。生命の色・安全の色、これが緑である。

2.3.4 青はバリエーションが多様



青は他の色に比べて薄い水色から紺・藍色とバリエーションが多様であり、同じ青でも印象が異なる。また、青は「ブルーデー」、「気分がブルーになる」と言った、落ち込んだ感情を表現する時に良く使われる色でもある。静的・内向的イメージが青にはあてはまる。明るい青には解放感・希望・積極性が見られるが、濃紺等の深い青には、静寂・浄化・集中・落ち込み・悲しみといった、より内面に向かう性質がある。人が落ち込んだり、悲しんだりする時には、青が心を落ち着かせてくれる。鎮静・浄化の効果を無意識に取り入れているからである。

図4 青の参考画像

2.3.5 紫は特に日本では意味合いの強い色



紫は特に日本では、意味合いの強い色として昔から使用されてきた。例えば、聖徳太子が制定した冠位十二階（身分制度）では最高位の色を紫と定めている。交感神経の赤・副交感神経の青を混色すると紫色になるが、これら二つの神経バランスが乱れている人（体調の悪い人・ストレス）がより紫色を好む傾向がある。これは、先出の波長の効果と共にニュートラルな状態に戻ろうとする自然治癒力が働いて無意識に紫を選択すると言える。つまり、癒しの色でもあるのである。江戸時代、体調を悪くした殿様が「紫紺」と言う薬効成分のある植物で染めた紫色の鉢巻をしていた。

図5 紫の参考画像

2.3.6 白は全ての光の色の波長を跳ね返す色



白は色にまつわる感情もないと言われている。「頭が真っ白になった」「白紙に戻す」など、言葉に使われている白は、正しく何もない事を指し示している事が多い。同時に白に対する敬意と憧れのイメージもある。ウェディングドレスの白は「純白＝まっさらで穢れていない処女性のイメージ」、医者や看護婦の白衣などの身に纏う白は「混じりけのない＝その仕事に余分なものが入り込まない潔白性」が感じられる。また、神道の禊を行う時や、亡くなった方の白装束は、命の終わりや再生・神仏への畏敬の念を意味している。つまり、白は無・処女・畏敬・終焉・再生と言ったイメージであり、最も哲学的・宗教的意味合いが強い色とも言える。

図6 白の参考画像

2.3.7 黒は全ての光を吸収する色、全ての色の要素を内包



図7 黒の参考画像

黒は白と対極する、勝負、陰陽、希望と絶望、ポジ・ネガ、プラス・マイナスといった事柄を表現している。その全てのマイナスイメージが黒で表現されている。言葉でも「黒」と言えば疑惑、負が付きまとい、イメージはコンプレックス・葛藤・反抗・悲しみなどがある。この様にマイナスイメージが先行している色だが、全ての色の要素をあわせ持つ黒は全ての意味合いを含んでいる。その為、喜びや悲しみを乗り越え、自己に向き合い確立していく場合にも黒が用いられる。喪服の黒は亡くなった方に対する悲しみ・思い出・敬愛・死に対する畏敬の念・残された自分の再構築といった意味合いが込められていると考えられている。

2.3.8 ピンクは青春、情熱、愛情を連想させる



図8 ピンクの画像

優しく温かみのある印象を与えるピンクは相手の警戒心を和らげ、親しくなりやすいと言われている。人がリラックスしたい時や幸福感を感じている時、またはそれを欲している時に表現する色であり、自身の優しさや愛情を強く引き出す色とされている。愛の本能を強め、愛するための体制作りをサポートしてくれる働きがある。特に女性は心を癒される色とされており、産婦人科などの内壁色や、雑貨、化粧品などにもピンクが多い。また、「女性ホルモン」の分泌を促し内分泌系を活性化するため、肌を若返らせる効果がある。

2.3.9 オレンジは波動、躍進、力強さを連想させる



図9 オレンジの画像

赤と黄色の中間に位置する色で、赤色のエネルギーと黄色の軽快を併せ持つ。黄色の幼児的イメージより成熟した健康的な自己主張で、赤色ほど衝動的ではなく、バランスのとれた、大人の色と言える。完熟した木の実にはオレンジ色が多く、収穫物などの意味もあり、生命にとって大切なエネルギーの元の色である。またコミュニケーションに適した色で、オレンジを身に着けると明るい気持ちで人の接したくなり、周囲を楽しませたいと思うようになる。人が集まる場所で場を盛り上げるならオレンジが最適とされている[4]。

2.4 男女の色彩嗜好の差

2.4.1 女性がうっとりする色

女性がうっとりする色は、自分を女性らしくしてくれる色である。体の内側から女性らしくしてくれるピンクは特に女性に好まれる。ピンクは見つめるだけで女性ホルモンの分泌が促され、幸福感を感じるドーパミンやベータ・エンドルフィンが分泌されやすくなることから、女性に見てほしい広告、買ってほしいパッケージ、入ってほしいお店の入り口にはピンク系の配色がある方が良いとされる。

しかし、同じ女性でも年代によって好まれるピンクのタイプは異なる。10代には明るくすっきりしたローズ系のピンクが好まれる傾向にあり、20代は大人の女性の複雑な心の内を反映しているかのように、うす紫を混ぜたようなピンクや灰色がわずかに混じったようなスモーキーなピンクが愛される傾向にある。また、子育て中の女性は、オレンジがかかったピンクを好んで受け入れる傾向にある。オレンジとピンクと白を混ぜたような色は、成長ホルモンとの関わりがある色であり、子供の成長だけでなく、大人の代謝も活発にすると考えられているため、母性が豊かな女性は無意識に自分と子供のために明るいオレンジピンクを求めることが多い。さらに、45歳を過ぎたころから、女性の好むピンクは今までよりも濃くなり、赤紫に近づいていく傾向が見られる。この傾向は55歳から60歳にかけてさらに顕著に表れるようになる。40代後半から60代にかけて、女性ホルモンの分泌が減少していく現象を、濃いピンクを見ることで女性ホルモンの分泌量が増加するからである。同じピンクでも、自己治癒効果や病気を治す効果が高いとされているのは、紫が混じったピンクである。入院した時に着用する患者さん用の寝巻をピンクにすると、長期入院中の60代女性が元気になったという事例がある。

しかし、全ての女性がピンクを好きなわけではない。幼いころに「あなたはピンクが似合わない」「姉(妹)と比べて女の子らしくない」といった心無い言葉に傷ついた人は、大人になってもピンクが嫌いな傾向が強い。愛されていないと感じている人にとって、ピンクは許せないほど媚びた色と捉えられる。しかし、出産を経験したり、今までの愛されていないというわだかまりが解消したりすると、ピンクを愛せるようになる。女性を本来の優しい性質にしてくれるため、多くの女性からピンクは好まれている。

また、赤も多くの女性に好まれている。赤は見る人の血圧を上げやすく、自律神経の交感神経系に作用して人を活動的にする色であり、アドレナリンの分泌も促進されることから、ある種の興奮状態を作ることが可能とされる。ピンクよりもさらに女性ホルモンの分泌を促す赤は、女性が無意識に求めやすい色である。

しかし、ピンクや赤といった女性を強調するような色ばかりが好まれるわけではない。女性は男性と比べ「赤と緑を見る細胞の数」が多い傾向にある。このことから、女性は緑もよく好むとされている。しかし、女性が好む緑は「自然の緑」である場合が多い。明るい黄緑よりも、落ち着きと高級感が与えられる濃い緑の方の人気の高い。緑は全面に使わ

れるよりも、空間の飾りやシンボルに利用する方が癒しの効果が高まることから、ゆったり見てほしい、ゆっくり居てほしい、優しい気持ちになってほしい、疲れを和らげてほしい、健康を気遣ってほしい、などという場面で利用されることが多い。女性ならではの気遣いの心、もてなしの心にフィットする「自然な緑」は多くの女性に好まれている色である。

女性は男性よりも「色が好きである」という感情が強く、色を感情的に見る傾向にある。男性は「明るい青」「薄い緑」というように物理的な特徴で色を判断するが、女性は「嬉しいピンク」「悲しい青」「むかつく黄緑」「憧れる紫」など感情と色を連動させる。女性が好む色は、派手で目立つだけでなく、好きという感情が動く色なのである。

2.4.2 男性が惹きつけられる色

男性がつい惹きつけられる色は、カッコよく見える色、すっきりしている配色である。何を持って男性がその色をカッコ良いと思うかは、戦士としての強さのイメージがどのくらい感じられるかで決まる。したがって、軽いイメージのものよりも重いイメージのものの方が愛される傾向にある。代表的な色として、黒、濃い灰色、紺である。また、柔らかいイメージのものは敬遠され、固い武器のような銀や黒といった色が受け入れられる。そして、血の赤、闇の黒など、勇気を誇張する色も大切である。そして戦略的に戦う頭の良さも必要とされ、知性と論理と集中の青が好まれ、正義と潔さを表すと感じられている色も大切である。男性は個人差もあるが、ほとんど無自覚の内に前述したような傾向を持っている。そんな中、男性はいち早く敵の存在を見極めたいという意識が強い。したがって、男性の視界には「ある」か「ない」かが大切である。女性のように色に感情をつけることは、あまりない。女性には「可愛い赤」「嬉しい赤」であっても、男性には「赤」であることが分かれば色の微妙な差はあまり関係ないのである。男性がはっきりした色、すっきりした配色をよく好むのはこのためである。

男性は特に青を好む傾向にある。サンゴ礁の海を思わせるアクアブルーから、夜空のように濃い紺間で、1人の男性が青系全部の色を肯定的に捉えることも少なくない。また、明るく気持ちの若いロマンチストな男性は明るい青、慎重で真面目な仕事人間の男性は紺、派手好きな個性派な男性は鮮やかな青、など性格や環境によって好みの青は細かく分かれる。

青以外に男性に好まれる色として緑が挙げられる。10年程前から年を追うごとに男性にも好まれ始めた色である。これは女性と同じく「自然の緑」フォレストグリーンである。このフォレストグリーンは35歳から60歳くらいまでの男性が好む傾向が強く、忙しいけれど余暇を大切にしている家庭的な男性、穏やかで人に気を使う男性、寝不足が続いているような健康に少し不安を持っている男性がよく好むことが多い。

青や緑といったよく男性をイメージする色の他に、男性に好まれる色として黄色が挙げられる。目立って感じられる黄色は、昼間特に脳を刺激し、目立つものをチェックしてマ

ークしておきたがる男性の性質上、黄色は無視できない色となっている。特に黒や灰色のスーツを着て、ビルの中で仕事をする多くの男性は慢性的に色不足の生活を送っていることから、明るく楽しい色を求めていることが多い。

孤独や諦めを味わうと好きになる傾向の強い青、さみしさを味わうと好きになる傾向の強い黄色、これらはどこかで現代の男性を癒しているである[5]。

2.5 色を表す仕組み

2.5.1 色の三属性

色相(hue)：数多くの色を整理・分類しようとする時、その色の「色味」に従って、整理・分類する。色みとは、ふつう、赤味、黄味、緑味、青味、紫味などのことであり、色彩学では、この色みのことを「色相」という。だが赤の色相でも青みに赤もあれば、純色の赤など色みに応じて無数にある。色みに似たもの、異なるものをいかに整理し、分類するかによって様々な分類法がある。

明度(value)：どのような色にも明るい色があり、暗い色がある。明るい赤、暗い赤などである。その中でも最も明るい色が白であり、もっとも暗い色が黒である。この白から、灰、黒にいたる明るさだけの色を無彩色といういい、これに対して色みのある色を有彩色という。そして無彩色の明るさ、暗さの度合いは全て有彩色の明度に対応している。

彩度(Chroma)：彩度は、色の三属性の1つで、色の鮮やかさの尺度である。彩度は基本的に、色空間の中央軸(無彩色軸)からの距離である。無彩色(白・黒・灰色)で0となり、無彩色軸から離れるにしたがい増し、純色で最大となる。また、彩度は色空間における距離なので、色空間に依存する。例えば、色空間によって純色以外でも彩度が最大になることがある。英語での名称は、HLS 色空間、HSV (HSB) 色空間、PCCS では saturation (S と略す)、マンセル表色系では Chroma だが、日本語では区別せず彩度という。ただし saturation については飽和度という訳語が使われることもある。また、純色量と訳されることもある NCS の Chromaticness、オストワルト表色系の purity も彩度と同種概念である。

2.5.2 表色系の彩度

NCS・オストワルト表色系：NCS やオストワルト表色系では、色相以外の属性(ニュアンス)を白、黒、純色の混合率で表す。純色の割合が彩度となる。純色量など別の用語を使うこともある。NSC ではパーセンテージ、オストワルト表色系では8段階に分けて表す。ただし、3色の混合率を表すには2色の率を表すだけでよく、オストワルト表色系では白色量と黒色量を使うため、彩度が明示されることはない。これらの表色系の色空間は双円錐(算盤の珠)型をしており、彩度が高くなると、明度は50%から大きく離れることができなくなる。

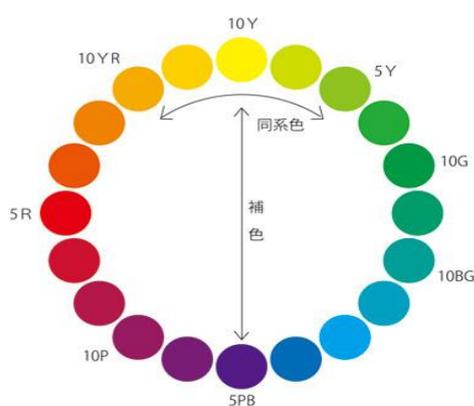
マンセル表色系・PCCS：マンセル表色系やPCCSの色空間はNCSやオストワルト表色系に似ているが、人間の知覚を重視しているため、歪んだ形をしている。そのため、彩度が最大のときの明度は必ずしも50%ではなく、色相によって異なる。例えば黄色では明度が高いとき、紫色では明度が低いとき、彩度を高くできる。マンセル表色系では彩度の最大値も異なる。最大彩度はマンセル表色系で10から14、PCCSで9である。

2.5.3 HLS・HSV 色空間の彩度

HLS や HSV (HSB) の彩度は、0~1 または 0%~100% で表す。HLS や HSV の色空間は、NCS などと異なり、円筒形をしている。そのため、純色以外に彩度が最大となるニュアンスがある。HLS では清色（純色と白または黒との混色）、HSV では暗清色（純色と黒との混色）で、彩度が最大になる。

HSV の彩度は、全体の明るさに対する純色の割合を示し、saturation の字義どおりの意味に近い。暗清色でも彩度が最大になるのは、このためである。また、明度が低く黒に近い場合、彩度が大きく変わっても、純色の絶対量はあまりかわらず知覚的には色があまり変わらない。HLS では同様のことが、明度が高く白に近い場合にも起こる

2.6 補色



色相環で対象に位置する関係の色の組合せのこと。例えば、「赤と緑」「橙と青」「黄と紫」など相補的な色のことでもある。余色、対照色、反対色とも言う。ある色に別の色を適宜割合で混合し、光の場合は白、物体の場合は黒というように、彩度低下を引き起こす色についても言う。補色は色相差が最も大きいので、お互いの色を目立たせる効果がある。商品パッケージや、看板にも多く用いられている[6]。

図 10 補色の相関関係図

2.7 色彩対比

2.7.1 色相對比

色相對比とは、背景の色とその上に置かれた色を同時に見比べた際、背景の色相の影響を受け、その上に置かれた色相が違った色に見えることである。背景の地色の心理補色が残像として現れるので、心理補色の方向に寄った色に見える。例えば黄色の地色の上にオレンジの地色がのっている場合と、赤色の地色の上にオレンジの図色がのっている場合、同じ色のオレンジであるにもかかわらず、黄色の上のオレンジは少し赤みによって見え、赤の上のオレンジは少し黄みに寄って見える。また色相差が大きい時は、補色の対比現象が起きる。黄の背景の上に紫がのっている時と、緑の背景に紫がのっている場合、背景の色の心理補色の影響を受け、同じ紫でも黄の上の紫はいつそう紫みが強くなり、緑の上の紫が赤みを増して見える。

2.8 二色配色

2.8.1 二色配色とは

二色配色 / ダイアード(dyads)、ペア(pairs)色相環を2等分した配色(dyads)は補色配色のことであり混色すれば無彩色になる。単なる、2色の組み合わせはペア(pairs)といわれる。

2.8.2 二色配色の種類

コントラスト配色：コントラストとは、対照、対比という意味である。つまり、色の差が大きいことを意味する。厳密には、色相コントラスト・明度コントラスト・彩度コントラストがある。また、トーンの対照という意味では、トーンコントラストもある。色彩検定では、通常何も断りがない場合には色相コントラストを意味するとされているが、言葉の使い方ではコントラストの要素をはっきりさせたほうが良いと言われている。また、補色関係も含んでいる。



図 11 コントラスト配色の例

トーン・イン・トーン配色：トーンを揃えた配色のことである。基本は同じトーンを使うものであり、実際の場合では「ほぼ同じトーン」感覚でよい。同一のトーンを使うか、もしくは類似トーンの関係にあるトーンを組み合わせるといった考え方である。

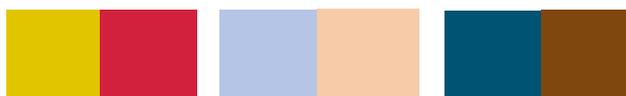


図 12 トーン・イン・トーン配色の例

トータル配色：濁色系のトーンを使ったトーン・イン・トーン配色のことをトータル配色と言う。トータルとは、英語で「トーンの」「トーンに関連した」それだけの意味であり、英語では通じない。そもそもこの名がついたのは、アメリカの著名な色彩学者だったフェイバービレン氏(故人)が、濁色系を「トーン」と呼んでいたことに関連している。なお、彼は中間色(濁色)をトーン、明清色系を「tint」(ティント)、暗清色系を「shade」(シェイド)と呼んでいる。



図 13 トータル配色の例

トーン・オン・トーン配色：最も一般的な配色である。現実的な場面では色相が多少違うこともあるが、その場合には、明るい色が黄み方向に偏っている方が自然に見え、その場合違和感がなくなる。自然な感じに見える色相の流れのことを「色相の自然な順列」と言い、流れを守った配色がいわゆる「ナチュラル配色」。トーン・オン・トーンでは、ナチュラル配色と言います。「ナチュラル配色」は、明るい色の方が暗い緑よりも色相が黄色方向に傾いている。

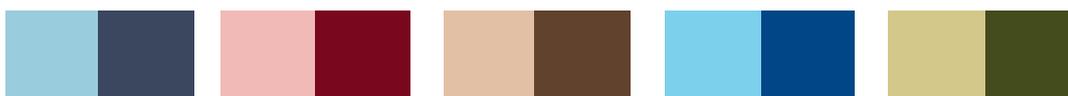


図 14 トーン・オン・トーン配色の例

コンプレックスカラー配色：「色相の自然な順列」を守らない配色を「コンプレックスカラー配色」と言う。コンプレックスとは「複雑な」という意味であり、違和感を覚えることからの命名である。オシャレな配色に感じられることが多く、ファッションなどによく使われる。コンプレックスカラー配色は色相が近いものを指すのが通常である。



図 15 コンプレックスカラーの配色の例

2.8.3 その他の配色

- ・三色配色 / トライアド(triads) 色相環を 3 等分した 120°の配色、トライアド(triads) は音楽の三和音のこと。分裂補色 / スプリットコンプリメンタリー(split complementary) は補色の片方を、色相環の両隣にした配色である。
- ・四色配色 / テトラード(tetrads) 色相環で正方形に 90°で等分した配色、色相環の 4 等分配色であり、2 組の補色による配色ともいえる。
- ・五色配色 / ペンタード(pentads) 色相環で正五角形に等分した配色で、マンセルの色相環では RYGBP の基本色相が典型的な例である。イッペンのペンタードは、トライアド(triads) に白と黒を加えた 5 色配色である。
- ・六色配色 / ヘクサード(hexads) 色相環で正六角形に等分した配色であり、テトラードの 4 色相に白と黒を加えた 6 色配色のことである。これにグレイを加えれば、セプタード(septards)、オクタード(octards)になる。
- ・6 色配色以上の名前はない[7]。

第3章 うつ病

3.1 うつ病とは

3.1.1 うつ病について

「うつ病」はうつ状態が症状の中心になっている場合に使われる言葉である。興味や意欲の喪失が生じ、抑うつ気分により苦しい思いをするなど、生活に支障が生じ、治療の対象となった場合「うつ病」という言葉が使われる。

うつ病患者は、脳内の神経伝達物質であるセロトニンやノルアドレナリンの量が減少し、情報伝達がスムーズに行われていないことがわかっている。つまり、うつ病は脳内の神経伝達物質の働きが悪くなっていることから起こる疾患で、決して気持ちの持ち方や精神論で解決できるものではない。

3.1.2 うつ病の受診率

うつ病は非常に罹患率の高い疾患であり、地域調査によると、うつ病の有病率は人口の約5%と言われている。しかし、実際に受診をしているうつ病患者は少ない。受診率が低理由として、うつ病になりやすい人は非常に真面目な人が多く、うつ病を病気ではなく、自分が精神的に弱いからだと考えて専門家の助けを受けようとしなかったり、受診のために会社などを休むことに抵抗を感じる場合があるからである。また、うつ病は身体症状も出やすく、易疲労感、頭痛、肩こり、腰痛といった身体症状にうつ状態が隠れて見えにくいこともある[8]。

また、厚生労働省が実施している患者調査によれば、日本の気分障害患者数は1996年には43.3万人、1999年には44.1万人とほぼ横ばいだが、2002年には71.1万人、2005年には92.4万人、2008年には104.1万人と、著しく増加している[9]。

3.1.3 うつ病の症状になりやすい人

うつ病は、性格的な条件やストレスなどの要因が重なることによって発症する病気だと言われている。しかし、その一方で、何の理由もなしに発病する可能性もある。この点に関しては研究があまり進まれているのが現状である。しかし多くのケースから判断するに、うつ病にかかりやすいタイプの人間というものが存在しているのも確かである。「社会的で親切」「明朗で活発」「物静かで気弱」「几帳面」「仕事熱心」「強い義務感」「徹底に物事を行うタイプ」「正直でモラリスト」「生真面目」「献身的」「自己要求水準が高い人間」といった何処にでもいるタイプの人間だと言うことがわかる。こうした人々が、過労や心理的葛藤、女性であれば出産、月経、その他にも様々な種類のストレスにさらされた時、うつ病が発病する危険性は高まる。このように、うつ病は誰でもかかる可能性のある、身近な病気である[10]。

第4章 研究方法

4.1 調査方法

4.1.1 調査方法について

SD法を用いた二色配色の印象評価アンケート、好き嫌いアンケート、YG性格検査の順で調査を行う(30分間で実施)。

一番初めに、スクリーンに映した12枚の二色配色のスライドを見てもらい、それぞれの配色に対して印象評価をしてもらう。スライド1枚につき40秒で評価をしてもらう(8分間)。

次に好き嫌いアンケートを行う。二色配色の印象評価で使用した12の二色配色の中から最も好きな配色、最も嫌いな配色をそれぞれ1つずつ選んでもらう(2分間)。

最後にYG性格検査を行う(20分間)。

4.1.2 調査対象

20歳以上の大学生とし、被験者数は100名。(男女比 68 : 32)

4.2 二色配色の印象評価

4.2.1 質問紙

SD法を用いた質問用紙を作成。SD法(Semantic Differential Method)とは、「よい」「わるい」「速い」「遅い」というように、対となる形容詞を両極にとり、その間をスケール化したものであり、イメージ調査などに利用される。言語による尺度を用いてある概念の構造を定量的に明らかにするための実験手法として心理学や官能評価の分野などで用いられてきたが、現在では建築計画や商品開発、アンケート調査の分野においても評価手法として広く用いられている。通常、調査は評価に当たる言語を5段階や7段階の評価尺度(レベル)でユーザーに提示し、感じたままのレベルを選択してもらう形で行う。SD法の手法のメリットは、定性的な情報を容易に定量化できる点にあると言われている。情報量が大量であるほど、そのデータによる結果の信頼性は高くなる。また、データは目的によって様々な統計分析(主成分分析や因子分析など)にかけることが可能であるため、データ間の相関関係を見るなど多角的な分析収集ができる。

本調査では、15の形容詞対「明るい—暗い」「温かい—冷たい」「鮮やかな—くすんだ」「濃い—薄い」「にぎやかな—静かな」「興奮した—冷静な」「陽気な—陰気な」「派手な—地味な」「シャープな—ソフトな」「良い—悪い」「荒々しい—清潔な」「重い—軽い」「はっきりした—あいまいな」「清潔な—不潔な」を質問用紙の項目とした。

これらの項目は、事前にアンケートを作成し、18人の被験者に6組み合わせの補色を映したスライドを見てもらい、形容詞対(114尺度 228形容詞)から複数回答可で選択してもらった。その中から上位15の形容詞対を本調査で用いることを決定した[11]。

二色配色の印象に関する調査

スライドの二色配色を見て、数字に0をつけてください。

氏名 _____

〈例〉	明るい	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	暗い
C1	明るい											暗い
C2	暖かい											冷たい
C3	輝やかな											くすんだ
C4	強い											弱い
C5	凛々だ											弱った
C6	にぎやかな											静かな
C7	興奮した											冷静な
C8	陽気な											陰気な
C9	活弁な											地味な
C10	シャープな											ソフトな
C11	激しい											優しい
C12	激々しい											穏やかな
C13	激しい											優しい
C14	はっきりした											あいまいな
C15	清潔な											汚濁な

図 16 本調査で使用した質問用紙

4.2.2 二色配色のスライド

調査で使用した二色配色のスライドは CMYK 「シアン(Cyan)」 「マゼンタ(Magenta)」 「イエロー(Yellow)」 「キー・プレート(KeyPlate)」 をもとに、CMY で 100% と 50% の掛け合わせで作られた 12 色を使用し、6 つの二色配色を作成した。また、左右の色を逆にしたものも作成し、合計で 12 枚の二色配色のスライドを用いて調査を行った。

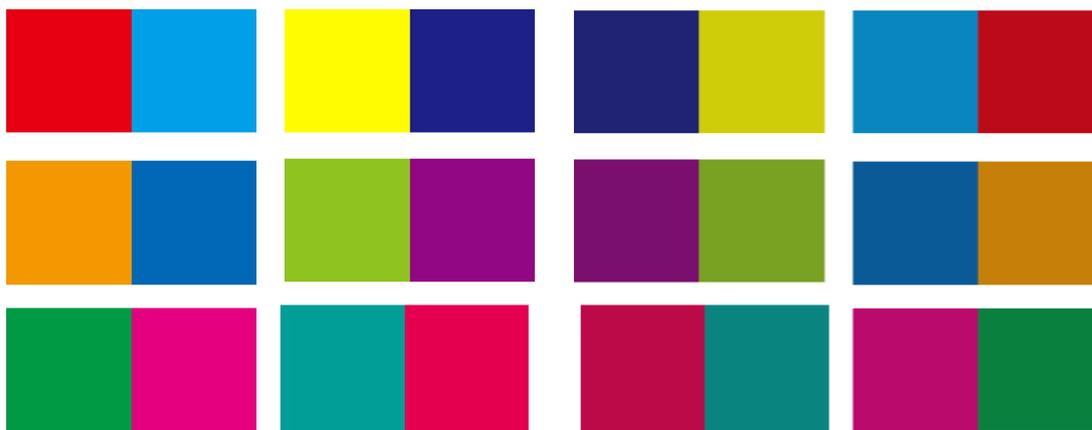


図 17 二色配色のスライド

4.3 YG 性格検査

4.3.1 YG 性格検査について

YG 性格検査とは人間の性格を 12 の尺度から検査し、性格を形成する 12 の因子(尺度)について、その強弱の状態を測定する。性格因子は D(抑うつ性)、C(回帰的傾向)、I(劣等感)、N(神経質)、O(客観性の欠如)、Co(協調性のないこと)、Ag(愛想の悪いこと)、G(一般的活動性)、R(のんきさ)、T(思考的外向)、A(支配性)、S(社会的外向)があり、性格類型は A(平均型)、B(不安定積極型)、C(安定消極型)、D(安定積極型)、E(不安定消極型)の 5 つのタイプに大きく分けられる。性格類型はこの 5 つのタイプそれぞれに、典型・準型・混合型があり性格判定は 15 通りある。検査は検査用紙(図 7 参照)を用いて実施し、質問に対して「はい・いいえ・どちらでもない」を選択して回答する。検査用紙には採点欄が付いており、

検査後すぐに採点が行え、検査結果として「型判定結果」と「プロフィール表」が得られる。型判定によって性格特性のタイプ・傾向を掴め、プロフィール表(グラフ状)は性格特性の詳細と全体を視覚的に捉えることができる[12]。



図 18 YG 性格検査用紙

4.3.2 YG 性格検査から分類できる 5 つの型

- ・ A 型(平均型)：特に目立った特徴のない平均タイプ。性格はバランスがとれている。
- ・ B 型(不安定積極型)：積極的で活発。不都合が生じると情緒と社会適応性が表面化。力を発揮しようとする。
- ・ C 型(安定消極型)：順応性・正確性・客観性があり、堅実なタイプ。行動は控えめで受動的。
- ・ D 型(安定積極型)：行動的でリーダーシップがある。特に営業職・管理職に適応する。
- ・ E 型(不安定消極型)：不都合が生じると殻に閉じこもる傾向がある。芸術や技術的な異才を発揮する機会が多い[13]。

本調査では、上記の 5 つの型を「平均型」「安定型」「不安定型」の 3 つの型に分類して分析を行う。

4.4 二色配色の好き嫌いアンケート

SD 法を用いた二色配色の印象評価アンケートで使用した 12 枚のスライドの中から好きな配色、嫌いな配色をそれぞれ一つずつ選択してもらおう。



図 19 好き嫌いアンケート用紙

4.5 分析方法

- ①二色配色のスライドにおける SD 法の結果を、スライドごとにデータ化する。
- ②YG 性格検査の結果を用いて、被験者を平均、安定、不安定の 3 つの型に分ける。
- ③スライドごとに集計したデータを、全てまとめたものを「全体のデータ」、YG 性格検査の結果を用いて、3 つの型別に分けたものをそれぞれ「平均型データ」、「安定型データ」、「不安定型データ」とした。さらに SD 法の結果を男女別に分けたものを「男性のデータ」、「女性のデータ」とし、それぞれ SPSS ソフトを用いて因子分析を行い分析する。
- ④二色配色の好き嫌いアンケートを集計し、好きな配色と嫌いな配色について、性格の型別、または男女別に差があるかを分析する。

第5章 結果

5.1 因子分析結果

	因子		
	1	2	3
派手な—地味な	.726	.248	.117
にぎやかな—静かな	.621	.213	.041
興奮した—冷静な	.607	.088	-.002
明るい—暗い	.557	.442	-.097
清潔な—不潔な	.174	.816	-.138
良い—悪い	.219	.705	-.057
はっきりした—あいまいな	.430	.507	.232
濃い—薄い	.234	.072	.638
重い—軽い	-.216	-.293	.519

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法
 a. 4回の反復で回転が収束しました。

図 20 全体

	成分		
	1	2	3
派手な—地味な	.742	-.003	.183
陽気な—陰気な	.710	.148	.077
にぎやかな—静かな	.702	.206	.101
はっきりした—あいまいな	.699	.105	.225
明るい—暗い	.642	.108	-.227
鮮やかな—くすんだ	.520	.479	-.026
暖かい—冷たい	-.048	.797	.087
良い—悪い	.233	.691	-.182
清潔な—不潔な	.298	.642	-.415
澄んだ—濁った	.402	.528	-.292
重い—軽い	-.170	-.331	.791
濃い—薄い	.167	.019	.719
荒々しい—繊細な	.198	-.404	.717
興奮した—冷静な	.363	.379	.576

因子抽出法: 主成分分析
 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法
 a. 5回の反復で回転が収束しました。

図 21 全体のスライド 1 枚目

	因子			
	1	2	3	4
陽気な—陰気な	.834	.167	-.205	.060
派手な—地味な	.693	.239	.036	.134
にぎやかな—静かな	.660	.255	.330	-.106
明るい—暗い	.644	.213	-.098	-.160
鮮やかな—くすんだ	.627	.502	-.098	-.026
重い—軽い	-.601	-.132	.233	.393
興奮した—冷静な	.490	.033	.236	.119
良い—悪い	.309	.583	-.227	.083
シャープな—ソフトな	.013	.561	.162	-.062
清潔な—不潔な	.353	.547	-.382	.114
澄んだ—濁った	.311	.499	-.088	-.210
荒々しい—繊細な	.031	-.050	.646	.164
濃い—薄い	.036	-.037	.119	.782

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法
 a. 6回の反復で回転が収束しました。

図 22 全体のスライド 2 枚目

スライド1~12のSD法の結果を全てまとめた全体のデータを因子分析に掛けると、左記の結果となった。第1因子は「派手な」「にぎやかな」「興奮した」「明るい」という元気なイメージから「活力因子」とした。第2因子は「清潔な」「良い」「はっきりした」という因子から「さわやか因子」、第3因子は「濃い」「重い」という重そうなイメージから「濃厚因子」とした。

次に、スライド1~12を1枚ずつスライド別に因子分析に掛けた。

スライド1枚目は、第1因子が「派手な」「陽気な」「にぎやかな」「はっきりした」「明るい」「鮮やかな」という因子から「明確因子」とした。第2因子は「暖かい」「良い」「清潔な」「澄んだ」という因子から「安心因子」、第3因子を「重い」「濃い」「荒々しい」「興奮した」から「重量因子」とした。

スライド2枚目は、第1因子の因子量にマイナスが付いているものがあり「陽気な」「派手な」「にぎやかな」「明るい」「鮮やかな」「軽い」「興奮した」という因子から「活力因子」とした。第2因子は「良い」「シャープな」「清潔な」「澄んだ」という因子から「さわやか因子」とし、第3因子は「荒々しさ因子」、第4因子は「濃厚因子」とした。

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
にぎやかな—静かな	.784	.181	.161
興奮した—冷静な	.762	.036	.018
派手な—地味な	.685	.129	.538
陽気な—陰気な	.635	.320	-.255
明るい—暗い	.534	.363	.147
荒々しい—繊細な	.509	-.161	.139
鮮やかな—くすんだ	.486	.451	.483
清潔な—不潔な	-.050	.676	.343
良い—悪い	.059	.673	.202
澄んだ—濁った	.159	.519	.090
濃い—薄い	.112	.139	.596
はっきりした—あいまいな	.172	.515	.560
シャープな—ソフトな	.003	.208	.512

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 7 回の反復で回転が収束しました。

図 23 全体のスライド 3 枚目

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
にぎやかな—静かな	.816	-.028	-.126
派手な—地味な	.705	.235	-.071
興奮した—冷静な	.679	.005	.041
明るい—暗い	.578	.326	.391
陽気な—陰気な	.557	.483	.287
鮮やかな—くすんだ	.529	.351	.227
良い—悪い	-.001	.672	.268
清潔な—不潔な	.025	.671	.276
はっきりした—あいまいな	.279	.547	-.166
重い—軽い	-.194	-.262	-.635
荒々しい—繊細な	.310	-.011	-.538
澄んだ—濁った	.395	.401	.476

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 24 全体のスライド 4 枚目

回転後の因子行列 ^a		
	因子	
	1	2
清潔な—不潔な	.795	.150
澄んだ—濁った	.689	-.034
良い—悪い	.614	.280
明るい—暗い	.606	.485
重い—軽い	-.589	-.033
派手な—地味な	.260	.716
にぎやかな—静かな	.136	.695
鮮やかな—くすんだ	.502	.564
陽気な—陰気な	.527	.535
濃い—薄い	-.483	.506
興奮した—冷静な	-.053	.503

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 25 全体のスライド 5 枚目

スライド 6 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

スライド 3 枚目は、第 1 因子を「にぎやかな」「興奮した」「派手な」「陽気な」「明るい」「荒々しい」「鮮やかな」という因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「良い」「はっきりした」という因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「濃い」「はっきりした」という因子から「明確因子」、第 4 因子は「鋭き因子」とした。

スライド 4 枚目は、第 1 因子が「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「明るい」「陽気な」「鮮やかな」という因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「良い」「清潔な」「はっきりした」という因子から「明確因子」、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているものがあるので、結果が「軽い」「繊細な」「澄んだ」という因子となり、「さわやか因子」とした。

スライド 5 枚目は、第 1 因子が「清潔な」「澄んだ」「良い」「明るい」「軽い」という因子から「さわやか因子」とした。第 2 因子は因子量にマイナスが付いているものがあるので、結果が「派手な」「にぎやかな」「鮮やかな」「陽気な」「濃い」「興奮した」という因子となり、「活力因子」とした。

回転後の因子行列 ^{a)}			
	因子		
	1	2	3
にぎやかな—静かな	.726	.193	-.083
陽気な—陰気な	.702	.155	.291
派手な—地味な	.697	.265	-.071
良い—悪い	.529	.343	.398
興奮した—冷静な	.517	.146	.102
はっきりした—あいまいな	.482	.470	-.037
鮮やかな—くすんだ	.192	.956	.220
明るい—暗い	.448	.614	.251
清潔な—不潔な	.248	.421	-.579
荒々しい—繊細な	.350	-.087	-.549
重い—軽い	-.111	-.038	-.537

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 26 全体のスライド 7 枚目

スライド 7 枚目は、第 1 因子を「にぎやかな」「陽気な」「派手な」「良い」「興奮した」「はっきりした」という因子から「陽気因子」とした。第 2 因子は「鮮やかな」「派手な」という因子から「ゴージャス因子」とし、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「清潔な」「繊細な」「軽い」という因子から「清々しき因子」とした。

回転後の因子行列 ^{a)}				
	因子			
	1	2	3	4
陽気な—陰気な	.695	.204	-.031	.167
鮮やかな—くすんだ	.694	.423	-.119	.082
明るい—暗い	.679	.247	-.206	.214
暖かい—冷たい	.615	-.157	-.023	.052
にぎやかな—静かな	.574	.284	.167	.229
良い—悪い	.569	.357	-.004	-.207
清潔な—不潔な	.513	.429	-.089	-.054
はっきりした—あいまいな	.149	.821	.048	.073
派手な—地味な	.403	.562	.057	.372
重い—軽い	-.185	-.301	.766	-.126
荒々しい—繊細な	-.074	.108	.535	.251
濃い—薄い	.141	.212	.463	-.279
興奮した—冷静な	.206	.102	-.023	.773

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 27 全体のスライド 8 枚目

スライド 8 枚目は、第 1 因子を「陽気な」「鮮やかな」「明るい」「暖かい」「にぎやかな」「良い」「清潔な」という因子から「高揚陰気」とした。第 2 因子は「はっきりした」「派手な」という因子から「ゴージャス因子」とし、第 3 因子は「重い」「荒々しい」「濃い」という因子から「重量因子」、第 4 因子は「興奮因子」とした。

回転後の因子行列 ^{a)}		
	因子	
	1	2
鮮やかな—くすんだ	.817	.298
はっきりした—あいまいな	.796	.051
清潔な—不潔な	.650	.040
良い—悪い	.633	.148
澄んだ—濁った	.615	.184
明るい—暗い	.554	.365
濃い—薄い	.479	.162
にぎやかな—静かな	.208	.824
派手な—地味な	.250	.727
興奮した—冷静な	-.032	.693
陽気な—陰気な	.342	.607

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 28 全体のスライド 9 枚目

スライド 9 枚目は、第 1 因子が「鮮やかな」「はっきりした」「清潔な」「良い」「澄んだ」「明るい」「濃い」という因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「陽気な」という因子から「情熱因子」とし、今回第 3 因子はなかった。また、このスライドは好き嫌いアンケートの結果、被験者の大多数が好ましいと感じた配色である。

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
にぎやかな—静かな	.852	.022	-.023
派手な—地味な	.746	.178	.209
興奮した—冷静な	.719	.085	-.034
陽気な—陰気な	.568	.517	-.157
鮮やかな—くすんだ	.494	.442	.107
明るい—暗い	.481	.390	-.176
清潔な—不潔な	.116	.857	-.168
良い—悪い	.081	.807	-.055
重い—軽い	-.271	-.363	.777
濃い—薄い	.167	.012	.618

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 29 全体のスライド 10 枚目

回転後の因子行列 ^a		
	因子	
	1	2
派手な—地味な	.700	.225
鮮やかな—くすんだ	.653	.230
にぎやかな—静かな	.639	.061
興奮した—冷静な	.588	.147
明るい—暗い	.580	.211
良い—悪い	.117	.993
清潔な—不潔な	.239	.465

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 30 全体のスライド 11 枚目

回転後の因子行列 ^a		
	因子	
	1	2
陽気な—陰気な	.801	.303
興奮した—冷静な	.725	.171
にぎやかな—静かな	.678	.071
派手な—地味な	.548	.219
明るい—暗い	.529	.328
良い—悪い	.224	.974
清潔な—不潔な	.177	.586

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 31 全体のスライド 12 枚目

スライド 10 枚目は、第 1 因子が「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「陽気な」「鮮やかな」「明るい」という賑やかで元気、派手であざやかなイメージから「情熱因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「良い」という清々しい優等生を連想させる因子から「さわやか因子」、第 3 因子は「重い」「濃い」という 2 つの因子から「重量因子」とした。

スライド 11 枚目は、第 1 因子を「派手な」「鮮やかな」「にぎやかな」「興奮した」「明るい」という元気で活発的、さらに明るさをイメージする因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「良い」「清潔な」という清々しく真面目な印象を受ける因子から「さわやか因子」とした。第 3 因子以降は抽出されなかった。

スライド 12 枚目は、第 1 因子を「陽気な」「興奮した」「にぎやかな」「派手な」「明るい」という元気で行動的、明るく活発なイメージから「活力因子」とした。第 2 因子は「良い」「清潔な」というスライド 11 と全く同じ因子から、同じく「さわやか因子」とした。スライド 12 も、第 3 因子以降は抽出されなかった。

次に、YG 性格検査の結果を基に、被験者を平均・安定・不安定の 3 つのタイプに分け、それぞれのタイプごとにスライド 1~12 の結果をまとめた全体と、スライド 1~12 を 1 枚ずつスライド別に因子分析に掛けた。

平均型 36%

	因子		
	1	2	3
清潔な—不潔な	.751	.228	-.148
良い—悪い	.679	.203	.014
鮮やかな—くすんだ	.630	.347	.225
澄んだ—濁った	.621	.158	-.002
明るい—暗い	.564	.481	.028
はっきりした—あいまいな	.513	.085	.506
興奮した—冷静な	.180	.653	.257
暖かい—冷たい	.162	.637	-.095
陽気な—陰気な	.429	.556	.201
濃い—薄い	.055	.010	.542
荒々しい—繊細な	-.236	.091	.523
派手な—地味な	.382	.473	.483

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 32 平均型の全体

	因子		
	1	2	3
重い—軽い	.962	.084	.048
荒々しい—繊細な	.764	.301	-.212
濃い—薄い	.624	.399	-.041
澄んだ—濁った	-.600	.459	.111
清潔な—不潔な	-.599	.287	.335
派手な—地味な	.033	.815	.159
陽気な—陰気な	.041	.726	-.101
興奮した—冷静な	.099	.632	.249
はっきりした—あいまいな	.331	.620	-.269
にぎやかな—静かな	-.211	.591	.268
シャープな—ソフトな	-.013	.022	.729
暖かい—冷たい	-.361	.159	.514

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 33 平均型のスライド 1 枚目

	因子			
	1	2	3	4
にぎやかな—静かな	.887	-.271	.099	-.360
重い—軽い	-.537	-.087	-.244	-.063
良い—悪い	.527	.115	.177	.152
はっきりした—あいまいな	.515	.281	.317	.170
陽気な—陰気な	.497	.428	.467	-.085
シャープな—ソフトな	.476	.164	-.032	.104
暖かい—冷たい	.046	.777	.189	-.032
明るい—暗い	.521	.737	.026	.026
鮮やかな—くすんだ	.416	.687	.236	.282
興奮した—冷静な	.084	.481	.312	-.426
派手な—地味な	.223	.306	.918	-.115
清潔な—不潔な	.519	.090	.360	.599
荒々しい—繊細な	.022	-.055	.114	-.590
澄んだ—濁った	.514	-.097	.104	.555

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 34 平均型のスライド 2 枚目

まず、平均型の人のスライド 1~12 全体のデータは、第 1 因子を「清潔な」「良い」「鮮やかな」「澄んだ」「明るい」「はっきりした」という元気なイメージから全体の第 1 因子と同じく「活力因子」とした。第 2 因子は「興奮した」「暖かい」「陽気な」という因子から「情熱因子」、第 3 因子は「濃い」「荒々しい」「派手な」という因子から「ゴージャス因子」とした。

平均型のスライド 1 枚目は、第 1 因子の因子量にマイナスが付いているものがあり、「重い」「荒々しい」「濃い」「濁った」「不潔な」というマイナスなイメージの因子が多いことから「不快感因子」とした。第 2 因子は「派手な」「陽気な」「興奮した」などの因子から「活力因子」、第 3 因子は「シャープな」「暖かい」という因子から「鋭さ因子」とした。

平均型のスライド 2 枚目は、第 1 因子の因子量にマイナスが付いているものがあり、「にぎやかな」「軽い」「良い」「はっきりした」などの気分が高まるような因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「暖かい」「明るい」「鮮やかな」「興奮した」から「華麗因子」、第 3 因子は「派手因子」とし、第 4 因子は「荒々しい」「澄んだ」から「繊細因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
鮮やかな—くすんだ	.795	.260	.199	.189
清潔な—不潔な	.729	-.023	.036	-.163
はっきりした—あいまいな	.725	.021	.256	.249
シャープな—ソフトな	.698	-.057	.096	.104
良い—悪い	.648	.197	.134	.143
重い—軽い	-.566	-.134	.106	.230
澄んだ—濁った	.505	-.028	.484	.157
興奮した—冷静な	-.035	.765	.064	.291
暖かい—冷たい	.043	.696	-.018	-.103
派手な—地味な	.483	.545	.302	.279
にぎやかな—静かな	.260	.543	.411	.328
陽気な—陰気な	.084	.141	.985	-.037
荒々しい—繊細な	.070	.201	.025	.953

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 35 平均型のスライド 3 枚目

平均型のスライド 3 枚目は、第 1 因子の因子量にマイナスが付いているものがあり、「鮮やかな」「清潔な」「良い」「軽い」「澄んだ」などの因子から「軽やか因子」とした。第 2 因子は「興奮した」「派手な」「にぎやかな」などの因子から「ゴージャス因子」とし、第 3 因子は「陽気因子」、第 4 因子は「荒々しい」という因子から「荒々しさ因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子	
	1	2
清潔な—不潔な	.847	.285
重い—軽い	-.733	-.222
にぎやかな—静かな	.697	-.204
澄んだ—濁った	.603	.110
良い—悪い	.577	.035
暖かい—冷たい	.032	.772
陽気な—陰気な	.088	.758
興奮した—冷静な	.108	.628

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 36 平均型のスライド 6 枚目

平均型のスライド 4、5 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

平均型のスライド 6 枚目は、第 1 因子にマイナスが付いているものがあり、「清潔な」「軽い」「にぎやかな」「澄んだ」「良い」というさわやかで好ましいイメージから「清々しさ因子」とした。第 2 因子は「暖かい」「陽気な」「興奮した」という熱をもって高ぶっているというイメージから「情熱因子」とした。平均型の結果では珍しく、第 3 因子は抽出されなかった。

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
鮮やかな—くすんだ	.785	-.004	.225	.097
清潔な—不潔な	.777	-.005	.064	-.299
明るい—暗い	.628	.072	.160	.130
にぎやかな—静かな	-.012	.978	.168	.120
派手な—地味な	-.050	.634	-.121	.289
陽気な—陰気な	.138	.491	.156	-.209
澄んだ—濁った	.141	.023	.988	-.055
良い—悪い	.240	.127	.561	-.018
重い—軽い	.045	.121	-.040	.991

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 37 平均型のスライド 7 枚目

平均型のスライド 7 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「清潔な」「明るい」というはっきりしていて、さわやかなイメージから「清々しさ因子」とした。第 2 因子は「にぎやかな」「派手な」「陽気な」という因子から「情熱因子」とした。第 3 因子は「澄んだ」「良い」という因子から「クリア因子」、第 4 因子は「重さ」という因子から「重量因子」とした。

	因子	
	1	2
明るい—暗い	.873	.000
鮮やかな—くすんだ	.775	.000
暖かい—冷たい	.753	.000
陽気な—陰気な	.695	.438
にぎやかな—静かな	.685	.425
清潔な—不潔な	.640	.118
良い—悪い	.611	.121
派手な—地味な	.379	.925
はっきりした—あいまいな	.135	.677
シャープな—ソフトな	-.027	.489

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

平均型のスライド 8 枚目は、第 1 因子を「明るい」「鮮やかな」「暖かい」「陽気な」「にぎやかな」「清潔な」「良い」という明るく元気で、好印象をうけるような因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「派手な」「はっきりした」「シャープな」というはっきりした印象を受ける因子から「明確因子」とした。第 3 因子は抽出されなかった。

図 38 平均型のスライド 8 枚目

	因子		
	1	2	3
鮮やかな—くすんだ	.827	.415	.005
はっきりした—あいまいな	.823	-.003	.130
良い—悪い	.799	.232	-.313
清潔な—不潔な	.645	.287	-.140
濃い—薄い	.604	.187	.144
澄んだ—濁った	.601	.439	.195
興奮した—冷静な	.056	.777	-.013
派手な—地味な	.345	.757	-.032
にぎやかな—静かな	.228	.747	-.029
陽気な—陰気な	.299	.624	-.111
荒々しい—繊細な	.019	.111	.772
重い—軽い	.023	-.182	.629

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

平均型のスライド 9 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「はっきりした」「良い」「清潔な」「澄んだ」などのきれいでさわやかな印象を受ける因子から「さわやか因子」とした。第 2 因子は「興奮した」「派手な」「にぎやかな」「陽気な」という明るく気分が高まっているような因子から「情熱因子」、第 3 因子は「荒々しい」「重い」という因子から「重量因子」とした。

図 39 平均型のスライド 9 枚目

	因子		
	1	2	3
鮮やかな—くすんだ	.717	.290	-.047
にぎやかな—静かな	.687	.104	.444
派手な—地味な	.679	.474	-.021
興奮した—冷静な	.649	.294	.356
陽気な—陰気な	.610	.557	.116
澄んだ—濁った	.530	.047	.109
暖かい—冷たい	.441	.375	.107
清潔な—不潔な	.013	.938	.344
良い—悪い	.297	.709	.011
明るい—暗い	.376	.553	.176
重い—軽い	-.150	-.219	-.964

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

平均型のスライド 10 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「陽気な」「澄んだ」「暖かい」という因子から「情熱因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「良い」「明るい」という因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているため、「軽い」という因子となり、そこから「軽やか因子」とした。

図 40 平均型のスライド 10 枚目

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
鮮やかな—くすんだ	.789	.035	.011
陽気な—陰気な	.788	-.291	.281
にぎやかな—静かな	.706	.043	-.070
派手な—地味な	.687	.134	-.112
興奮した—冷静な	.530	.114	.219
濃い—薄い	.284	.646	-.084
清潔な—不潔な	.520	-.641	-.044
荒々しい—繊細な	.114	.605	.787
シャープな—ソフトな	-.005	-.123	.543

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 5 回の反復で回転が収束しました。

平均型のスライド 11 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「陽気な」「にぎやかな」「派手な」「興奮した」という明るく楽しそうで、気分が高まる印象から「高揚因子」とした。第 2 因子は「濃い」「清潔な」という因子から「明確因子」とし、第 3 因子は「荒々しい」「シャープな」という因子から「衝動因子」とした。

図 41 平均型のスライド 11 枚目

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
興奮した—冷静な	.933	.064	.179
陽気な—陰気な	.640	.053	.363
はっきりした—あいまいな	.562	.135	.027
暖かい—冷たい	.504	.136	.316
にぎやかな—静かな	.497	.256	-.003
清潔な—不潔な	.377	.888	-.085
澄んだ—濁った	.148	.675	.059
良い—悪い	.321	.658	.274
荒々しい—繊細な	.312	-.560	-.290
明るい—暗い	.274	.166	.947

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 7 回の反復で回転が収束しました。

平均型のスライド 12 枚目は、第 1 因子を「興奮した」「陽気な」「はっきりした」「暖かい」「にぎやかな」という気持ちが高まり、熱が感じられる印象を受ける因子から「情熱因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「澄んだ」「良い」などの気持ちのよさそうな因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「明るい」という因子から「晴れやか因子」とした。

図 42 平均型のスライド 12 枚目

安定型 27%

因子行列 ^a	
	因子
	1
鮮やかな—くすんだ	.835
明るい—暗い	.793
陽気な—陰気な	.774
はっきりした—あいまいな	.712
良い—悪い	.712
派手な—地味な	.688
清潔な—不潔な	.671
にぎやかな—静かな	.652

因子抽出法: 最尤法
a. 1 個の因子が抽出されました。4 回の反復が必要です。

図 43 安定型の全体

	回転後の因子行列 ^a		
	1	2	3
派手な—地味な	.914	-.016	.022
鮮やかな—くすんだ	.896	.208	.132
はっきりした—あいまいな	.767	.134	.267
興奮した—冷静な	.675	-.189	.214
にぎやかな—静かな	.636	.061	.347
陽気な—陰気な	.606	.062	.310
清潔な—不潔な	.300	.819	.216
重い—軽い	.032	-.685	-.170
荒々しい—繊細な	.216	-.662	.106
良い—悪い	.492	.629	-.027
シャープな—ソフトな	.308	-.061	.949
澄んだ—濁った	.207	.270	.687

因子抽出法: 最尤法
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 44 安定型のスライド 1 枚目

	回転後の因子行列 ^a			
	1	2	3	4
明るい—暗い	.807	-.020	-.092	.020
鮮やかな—くすんだ	.797	.065	.590	.109
陽気な—陰気な	.746	.280	-.291	.023
澄んだ—濁った	.742	.233	.287	.111
重い—軽い	-.729	.122	.204	.207
はっきりした—あいまいな	.542	.194	.128	.369
良い—悪い	.251	.893	.352	-.122
暖かい—冷たい	-.003	.638	.040	.074
シャープな—ソフトな	-.125	.259	.756	.092
にぎやかな—静かな	.424	.124	-.066	.894
荒々しい—繊細な	-.195	-.071	.115	.503

因子抽出法: 最尤法
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
a. 7 回の反復で回転が収束しました。

図 45 安定型のスライド 2 枚目

次に、安定型の人々のスライド 1~12 全体のデータは、第 1 因子を「派手な」「にぎやかな」「鮮やかな」「陽気な」「明るい」「興奮した」という明るく元気で気分が高まるような印象を受ける因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「良い」「はっきりした」という清々しく良い印象を受ける因子から「さわやか因子」とした。第 3 因子は抽出されなかった。

安定型のスライド 1 枚目は、第 1 因子を「派手な」「鮮やかな」「はっきりした」「興奮した」「賑やかな」などの元気な印象の因子から「活力因子」とした。第 2 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり、「清潔な」「軽い」「繊細な」「良い」という因子から「好印象因子」とし、第 3 因子は「シャープな」「澄んだ」という因子から「鋭さ因子」とした。

安定型のスライド 2 枚目は、第 1 因子の因子量にマイナスが付いているものがあり「明るい」「鮮やかな」「陽気な」「澄んだ」「軽い」「はっきりした」という因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「良い」「暖かい」という因子から「温厚因子」とし、第 3 因子は「シャープ因子」、第 4 因子は「にぎやかな」「荒々しい」という因子から「子供因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
にぎやかな—静かな	.862	.160	-.062	.116
興奮した—冷静な	.767	.236	.057	.011
鮮やかな—くすんだ	.756	.002	-.001	.141
派手な—地味な	.731	.195	-.093	.441
陽気な—陰気な	.727	-.284	-.259	-.568
明るい—暗い	.520	.038	.110	-.138
良い—悪い	.240	.794	-.124	-.110
清潔な—不潔な	.181	.777	.097	-.354
はっきりした—あいまいな	-.007	.664	-.152	.089
重い—軽い	-.172	-.015	.866	-.067
荒々しい—繊細な	.240	-.220	.594	.146
シャープな—ソフトな	.127	-.216	-.028	.595

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリエーション法
 a. 7 回の反復で回転が収束しました。

安定型のスライド3枚目は、第1因子は「にぎやかな」「興奮した」「鮮やかな」「派手な」「陽気な」「明るい」という因子から「活力因子」とした。第2因子は「良い」「清潔な」「はっきりした」という因子から「好印象因子」とし、第3因子は「重い」「荒々しい」という因子から「重量因子」、第4因子は「シャープな」という因子から「鋭さ因子」とした。

図 46 安定型のスライド3枚目

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
派手な—地味な	.942	.284	.000	.000
にぎやかな—静かな	.782	.055	.344	.000
興奮した—冷静な	.753	-.046	.239	.000
鮮やかな—くすんだ	.740	.295	-.185	.000
澄んだ—濁った	.724	.251	-.242	.000
明るい—暗い	.722	.419	-.158	.000
清潔な—不潔な	-.035	.791	-.161	.000
良い—悪い	.400	.761	-.151	.000
陽気な—陰気な	.529	.638	.022	.000
暖かい—冷たい	.385	.495	.388	.000
重い—軽い	-.246	.012	.969	.000
荒々しい—繊細な	.107	-.175	.541	.000

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリエーション法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

安定型のスライド4枚目は、第1因子を「派手な」「にぎやかな」「興奮した」「鮮やかな」「澄んだ」「明るい」という元気で活発的な印象を受ける因子から「活力因子」とした。第2因子は「清潔な」「良い」「陽気な」「暖かい」という暖かい印象を受ける因子から「陽気因子」とし、第3因子は「重い」「荒々しい」という因子から「重量因子」とした。

図 47 安定型のスライド4枚目

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
鮮やかな—くすんだ	.859	.251	.129	.290
派手な—地味な	.761	.084	.225	-.104
はっきりした—あいまいな	.751	.210	.197	.014
明るい—暗い	.674	.317	.235	.065
陽気な—陰気な	.595	.181	.287	.065
清潔な—不潔な	.241	.853	.363	.288
濃い—薄い	-.140	-.724	.024	.107
重い—軽い	-.206	-.559	.164	.065
澄んだ—濁った	.138	.553	-.086	-.197
暖かい—冷たい	.309	-.020	.948	.074
にぎやかな—静かな	.407	.096	.515	.270
荒々しい—繊細な	.300	-.266	.503	-.042
興奮した—冷静な	.039	-.344	.074	.935
良い—悪い	.452	.482	.134	.484

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリエーション法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

安定型のスライド5枚目は、第1因子を「鮮やかな」「派手な」「はっきりした」などの因子から「活力因子」とした。第2因子は、因子量にマイナスがあり「清潔な」「薄い」「軽い」などの因子から「さわやか因子」とし、第3因子は「暖かい」「にぎやかな」などの因子から「情熱因子」、第4因子は「興奮した」「良い」という因子から「高揚因子」とした。

図 48 安定型のスライド5枚目

安定型のスライド6枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

回転後の因子行列^a

	因子	
	1	2
鮮やかな—くすんだ	.917	.202
明るい—暗い	.815	.442
良い—悪い	.774	.465
陽気な—陰気な	.746	.302
派手な—地味な	.726	.306
シャープな—ソフトな	.715	-.045
清潔な—不潔な	.673	.269
はっきりした—あいまいな	.667	.375
澄んだ—濁った	.604	.423
重い—軽い	-.510	.011
濃い—薄い	-.032	.999
にぎやかな—静かな	.516	.547
暖かい—冷たい	.179	.542

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 49 安定型のスライド 7 枚目

安定型のスライド 7 枚目は、第 1 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり、「鮮やかな」「明るい」「良い」「陽気な」「派手な」「シャープな」「清潔な」「はっきりした」「澄んだ」「軽い」という元気で活発的な印象を受ける多くの因子があることから「活力因子」とした。第 2 因子は「濃い」「にぎやかな」「暖かい」という因子から「高揚因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
重い—軽い	-.951	.181	-.252
澄んだ—濁った	.560	.384	.056
はっきりした—あいまいな	.500	.217	.042
良い—悪い	.464	.716	-.404
陽気な—陰気な	.257	.674	.233
にぎやかな—静かな	-.104	.621	.017
鮮やかな—くすんだ	.374	.561	.076
興奮した—冷静な	.092	.010	.765
明るい—暗い	.520	.519	.649

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 50 安定型のスライド 8 枚目

安定型のスライド 8 枚目は、第 1 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「軽い」「澄んだ」「はっきりした」という繊細で透き通った印象の因子から「シャープ因子」とした。第 2 因子は「良い」「陽気な」「にぎやかな」「鮮やかな」という因子から「高揚因子」とし、第 3 因子は「興奮した」「明るい」という因子から「活力因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
はっきりした—あいまいな	.830	.090	-.179	-.154
濃い—薄い	.792	-.089	-.045	.059
明るい—暗い	.791	.332	-.137	-.084
良い—悪い	.695	.252	.208	.018
鮮やかな—くすんだ	.693	.107	.192	.035
清潔な—不潔な	.646	.171	-.389	.198
澄んだ—濁った	.559	-.126	-.417	.360
興奮した—冷静な	.071	.946	.134	.131
陽気な—陰気な	.209	.801	-.272	.011
荒々しい—繊細な	.119	-.008	.845	-.008
暖かい—冷たい	-.124	-.050	.593	-.106
重い—軽い	.067	.033	.000	-.822
にぎやかな—静かな	.270	.550	-.003	.583
派手な—地味な	-.021	.233	-.337	.559

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 51 安定型のスライド 9 枚目

安定型のスライド 9 枚目は、第 1 因子を「はっきりした」「濃い」「明るい」などの因子から「明確因子」とした。第 2 因子は「興奮した」「陽気な」から「情熱因子」とし、第 3 因子は「荒々しい」「暖かい」から「興奮因子」、第 4 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「軽い」「にぎやかな」「派手な」という因子から「高揚因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
清潔な—不潔な	.999	-.012	-.032
良い—悪い	.719	.003	-.114
鮮やかな—くすんだ	.701	.457	-.012
重い—軽い	-.662	-.232	.353
はっきりした—あいまいな	.619	.419	.137
明るい—暗い	.608	.367	.116
陽気な—陰気な	.583	.573	-.090
興奮した—冷静な	.050	.756	.064
にぎやかな—静かな	.230	.734	.131
派手な—地味な	.247	.531	.373
濃い—薄い	.117	.204	.848
荒々しい—繊細な	-.210	.285	.577
シャープな—ソフトな	.080	.060	-.530

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 52 安定型のスライド 10 枚目

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
暖かい—冷たい	.816	-.050	.073
にぎやかな—静かな	.771	.091	-.083
派手な—地味な	.659	.361	.309
興奮した—冷静な	.656	.445	.313
鮮やかな—くすんだ	.056	.996	.058
澄んだ—濁った	.104	.586	.308
明るい—暗い	.179	.571	.257
はっきりした—あいまいな	.277	.482	.478
清潔な—不潔な	.163	.112	.908
陽気な—陰気な	.585	.383	.610
重い—軽い	-.065	.273	.607

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 53 安定型のスライド 11 枚目

安定型のスライド 12 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

安定型のスライド 10 枚目は、第 1 因子、第 3 因子には因子量にマイナスが付いているものがあり「清潔な」「良い」「鮮やかな」「軽い」などの因子から第 1 因子を「高揚因子」、「濃い」「荒々しい」「ソフトな」という因子から、第 3 因子を「濃厚因子」とした。第 2 因子は「興奮した」「にぎやかな」「派手な」という因子から「情熱因子」とした。

安定型のスライド 11 枚目は、第 1 因子を「暖かい」「にぎやかな」「派手な」「興奮した」という因子から「情熱因子」とした。第 2 因子は「鮮やかな」「澄んだ」「明るい」「はっきりした」という因子から「明確因子」とし、第 3 因子は「清潔な」「陽気な」「重い」という因子から「型物因子」とした。

不安定型 37%

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
清潔な—不潔な	.840	.094	-.086
良い—悪い	.705	.091	-.112
澄んだ—濁った	.620	.315	-.103
はっきりした—あいまいな	.609	.367	.240
にぎやかな—静かな	.167	.792	.122
派手な—地味な	.254	.745	.069
興奮した—冷静な	.050	.645	-.036
明るい—暗い	.424	.594	-.038
濃い—薄い	.080	.243	.688
重い—軽い	-.279	-.193	.675

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリダックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 54 不安定型のスライド全体

回転後の因子行列 ^a					
	因子				
	1	2	3	4	5
澄んだ—濁った	.881	.079	.041	-.059	.067
清潔な—不潔な	.661	.015	.303	-.175	-.131
荒々しい—繊細な	-.635	.362	-.003	.350	.465
良い—悪い	.510	.025	.237	-.033	-.113
鮮やかな—くすんだ	.480	.097	.284	-.131	.190
にぎやかな—静かな	.297	.737	.037	.174	.350
明るい—暗い	.263	.668	.447	-.037	-.196
派手な—地味な	-.015	.631	-.043	-.058	-.084
シャープな—ソフトな	-.207	.514	-.046	-.016	.114
暖かい—冷たい	.312	-.291	.766	-.070	.139
はっきりした—あいまいな	.330	.418	.554	.216	.043
陽気な—陰気な	.182	.471	.493	-.114	.081
重い—軽い	-.341	-.110	-.182	.915	.030
濃い—薄い	-.025	.025	.052	.571	.110
興奮した—冷静な	-.051	.025	.092	.130	.790

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリダックス法
 a. 8 回の反復で回転が収束しました。

図 55 不安定型のスライド 1 枚目

回転後の因子行列 ^a				
	因子			
	1	2	3	4
鮮やかな—くすんだ	.889	.069	.016	-.020
派手な—地味な	.864	.087	-.008	.093
陽気な—陰気な	.781	.202	.303	-.033
にぎやかな—静かな	.724	-.005	-.150	.282
重い—軽い	-.707	.292	-.540	.163
明るい—暗い	.598	-.011	.213	-.112
良い—悪い	.568	.051	.265	-.145
はっきりした—あいまいな	.268	.907	.067	-.194
濃い—薄い	-.068	.738	-.076	.107
興奮した—冷静な	.476	.138	.616	.611
暖かい—冷たい	.032	-.028	.609	-.156
荒々しい—繊細な	-.082	-.044	-.201	.659

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリダックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 56 不安定型のスライド 2 枚目

不安定な人のスライド 1~12 全体のデータは、第 1 因子を「清潔な」「良い」「澄んだ」「はっきりした」という上記と同じような結果から「活力因子」とした。第 2 因子は「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「明るい」という平均型の第 2 因子と同じような結果から「情熱因子」、第 3 因子は「濃い」「重い」から「重量因子」とした。

不安定型のスライド 1 枚目は、第 1 因子を「澄んだ」「清潔な」「繊細な」「良い」「鮮やかな」から「好印象因子」とした。第 2 因子は「にぎやかな」「明るい」「派手な」「シャープな」から「華麗因子」とし、第 3 因子は「暖かい」「はっきりした」「陽気な」から「麗か因子」、第 4 因子は「重量因子」、第 5 因子は「興奮因子」とした。

不安定型のスライド 2 枚目は、第 1 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「鮮やかな」「派手な」「にぎやかな」「軽い」などの因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「はっきりした」「濃い」という因子から「明確因子」とし、第 3 因子は「興奮した」「濃い」という因子から「興奮因子」、第 4 因子は「繊細因子」をした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
興奮した—冷静な	.808	-.020	-.094
にぎやかな—静かな	.781	.033	.037
派手な—地味な	.765	.220	.331
陽気な—陰気な	.738	.123	-.395
鮮やかな—くすんだ	.665	.431	.210
荒々しい—繊細な	.654	-.173	-.059
暖かい—冷たい	.643	-.008	-.004
明るい—暗い	.638	.392	.001
清潔な—不潔な	-.006	.814	.116
良い—悪い	-.063	.694	-.143
はっきりした—あいまいな	.410	.630	.320
濃い—薄い	.159	-.057	.957
重い—軽い	-.177	.126	.664

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 57 不安定型のスライド 3 枚目

不安定型のスライド 3 枚目は、第 1 因子を「興奮した」「にぎやかな」「派手な」「陽気な」「鮮やかな」「荒々しい」「暖かい」「明るい」という元気で活力的なイメージの因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「良い」「はっきりした」という因子から「好印象因子」とし、第 3 因子は「濃い」「重い」という因子から「重量因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
清潔な—不潔な	.823	.121	.022	.115
良い—悪い	.723	-.073	-.199	-.115
重い—軽い	-.712	-.261	-.197	.007
はっきりした—あいまいな	.574	.545	-.001	.009
澄んだ—濁った	.525	.475	-.039	.252
陽気な—陰気な	.513	.509	.208	.286
派手な—地味な	-.077	.850	.316	-.095
明るい—暗い	.283	.743	.039	.272
鮮やかな—くすんだ	.173	.606	.365	.036
興奮した—冷静な	.060	.080	.994	.009
にぎやかな—静かな	-.080	.301	.595	.005
暖かい—冷たい	.398	-.023	.087	.913
濃い—薄い	-.178	.117	-.041	.533

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 7 回の反復で回転が収束しました。

図 58 不安定型のスライド 4 枚目

不安定型のスライド 4 枚目は、第 1 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「清潔な」「良い」「軽い」「はっきりした」などの因子から「軽やか因子」とした。第 2 因子は「派手な」「明るい」「鮮やかな」という因子から「ゴージャス因子」とし、第 3 因子は「興奮した」「にぎやかな」から「派手因子」、第 4 因子は「暖かき因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
派手な—地味な	.783	.183	.149	-.092
鮮やかな—くすんだ	.733	.379	-.145	-.288
興奮した—冷静な	.714	.057	.003	.299
陽気な—陰気な	.621	.492	-.209	-.272
明るい—暗い	.587	.385	-.142	-.134
にぎやかな—静かな	.525	.132	.480	-.150
良い—悪い	.138	.872	-.161	-.374
暖かい—冷たい	.367	.727	.044	.230
清潔な—不潔な	.215	.696	-.184	-.104
濃い—薄い	.314	-.118	.845	.311
重い—軽い	-.321	-.211	.749	.141
澄んだ—濁った	.116	.543	-.596	.229
荒々しい—繊細な	-.086	-.064	.083	.626

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 59 不安定型のスライド 5 枚目

不安定型のスライド 5 枚目は、第 1 因子を「派手な」「鮮やかな」「興奮した」「陽気な」などの因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「良い」「暖かい」「清潔な」という因子から「安心因子」とし、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「濃い」「重い」「濁った」という因子から「重量因子」、第 4 因子は「荒々しさ因子」とした。

不安定型のスライド 6 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

回転後の因子行列^a

	因子	
	1	2
良い—悪い	.716	.385
鮮やかな—くすんだ	.702	.258
明るい—暗い	.672	.361
清潔な—不潔な	.657	.293
澄んだ—濁った	.649	-.031
荒々しい—繊細な	-.535	.372
陽気な—陰気な	.509	.485
はっきりした—あいまいな	.302	.762
興奮した—冷静な	.043	.760
派手な—地味な	.377	.693
濃い—薄い	.042	.472

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 60 不安定型のスライド 7 枚目

不安定型のスライド 7 枚目は、第 1 因子に因子量にマイナスが付いているものがあり「良い」「鮮やかな」「明るい」「清潔な」「澄んだ」「繊細な」「陽気な」という元気で活発的な印象の因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「はっきりした」「興奮した」「派手な」「濃い」というはっきり目立つようなイメージの因子から「明確因子」とした。

因子行列^a

	因子	
	1	2
鮮やかな—くすんだ	.843	-.144
派手な—地味な	.806	.160
明るい—暗い	.800	.002
澄んだ—濁った	.742	.129
はっきりした—あいまいな	.703	.193
陽気な—陰気な	.644	-.213
清潔な—不潔な	.622	-.076
にぎやかな—静かな	.593	.069
荒々しい—繊細な	.035	.809
重い—軽い	-.226	.642

因子抽出法: 最尤法
 a. 2 個の因子が抽出されました。7 回の反復が必要です。

図 61 不安定型のスライド 8 枚目

不安定型のスライド 8 枚目は、第 1 因子を「澄んだ」「はっきりした」「清潔な」「派手な」「シャープな」という因子から「さわやか因子」とした。第 2 因子は「鮮やかな」「明るい」「陽気な」「暖かい」という因子から「陽気」因子とし、第 3 因子は「重い」「荒々しい」という因子から「重量因子」、第 4 因子は「濃い」という因子から「濃度因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
派手な—地味な	.874	.141	-.068
にぎやかな—静かな	.824	.165	-.307
陽気な—陰気な	.731	.192	.243
荒々しい—繊細な	.652	-.182	.055
興奮した—冷静な	.492	-.210	-.467
清潔な—不潔な	-.353	.915	.069
はっきりした—あいまいな	.305	.614	.525
良い—悪い	.037	.597	-.136
澄んだ—濁った	.107	.565	.102
鮮やかな—くすんだ	.451	.557	.387
重い—軽い	-.035	-.029	.583

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 62 不安定型のスライド 9 枚目

不安定型のスライド 9 枚目は、第 1 因子を「派手な」「にぎやかな」「陽気な」「荒々しい」「興奮した」という気分が高まっているような印象の因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「はっきりした」「良い」「澄んだ」「鮮やかな」という因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「重い」という因子から「重量因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
にぎやかな—静かな	.927	-.008	.075
派手な—地味な	.870	.040	.079
興奮した—冷静な	.741	-.022	-.184
シャープな—ソフトな	.381	-.216	-.040
良い—悪い	-.047	.909	-.156
清潔な—不潔な	-.058	.779	-.185
荒々しい—繊細な	.391	-.517	-.023
鮮やかな—くすんだ	.351	.484	.226
濃い—薄い	.158	.141	.855
重い—軽い	-.036	-.283	.747
明るい—暗い	.376	.103	-.523

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 63 不安定型のスライド 10 枚目

不安定型のスライド 10 枚目は、第 1 因子を「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「シャープな」という因子から「情熱因子」とした。第 2、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり、「良い」「清潔な」「繊細な」「鮮やかな」という因子から第 2 因子は「さわやか因子」とし、「濃い」「重い」「暗い」という因子から第 3 因子は「重量因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
明るい—暗い	.924	-.054	-.157
にぎやかな—静かな	.768	-.110	.442
鮮やかな—くすんだ	.648	.224	-.135
荒々しい—繊細な	.572	-.062	.149
派手な—地味な	.516	.084	.182
濃い—薄い	.459	-.203	-.425
良い—悪い	-.017	.925	-.214
清潔な—不潔な	.051	.643	.307
シャープな—ソフトな	.114	-.007	.542

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 64 不安定型のスライド 11 枚目

不安定型のスライド 11 枚目は、第 1 因子を「明るい」「にぎやかな」「鮮やかな」「荒々しい」「派手な」「濃い」という元気で活発的、行動的な印象を受ける因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「良い」「清潔な」という清々しく真面目で、良い印象を受ける因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「シャープ因子」とした。

不安定型のスライド 12 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

さらに、全体のデータを男女別に分けて、男女ごとにスライド1~12の結果をまとめた全体と、スライド1~12を1枚ずつスライド別に因子分析に掛けた。

男性 68%

	因子		
	1	2	3
清潔な—不潔な	.755	.196	-.226
良い—悪い	.695	.238	-.132
はっきりした—あいまいな	.570	.384	.188
鮮やかな—くすんだ	.566	.530	.001
派手な—地味な	.317	.661	.116
興奮した—冷静な	.099	.571	.096
明るい—暗い	.476	.571	-.113
にぎやかな—静かな	.248	.499	.050
重い—軽い	-.225	-.311	.617
濃い—薄い	.125	.147	.542
荒々しい—繊細な	-.165	.190	.461

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法
 a. 5回の反復で回転が収束しました。

まず、男性のスライド1~12全体のデータは、第1因子を「清潔な」「良い」「はっきりした」「鮮やかな」という清潔感が感じられ、良い印象を受けることから「さわやか因子」とした。第2因子は「派手な」「興奮した」「明るい」「にぎやかな」という元気で活発なイメージから「活力因子」とし、第3因子は「重い」「濃い」などから「重量因子」とした。

図 65 男性の全体

	因子		
	1	2	3
荒々しい—繊細な	-.811	.262	.332
清潔な—不潔な	.761	.231	-.016
重い—軽い	-.677	-.108	.478
澄んだ—濁った	.589	.428	.029
良い—悪い	.551	.245	.131
にぎやかな—静かな	.332	.721	.107
シャープな—ソフトな	.069	.596	-.007
陽気な—陰気な	.139	.562	.170
興奮した—冷静な	-.042	.533	.290
濃い—薄い	-.266	.113	.682
はっきりした—あいまいな	.198	.321	.510

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法
 a. 5回の反復で回転が収束しました。

男性のスライド1枚目は、第1因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「繊細な」「清潔な」「軽い」「澄んだ」「良い」という因子から「さわやか因子」とした。第2因子は「にぎやかな」「シャープな」「陽気な」「興奮した」という因子から「高揚因子」とし、第3因子は「濃い」「はっきりした」という因子から「重量因子」とした。

図 66 男性のスライド1枚目

	因子		
	1	2	3
にぎやかな—静かな	.756	.138	.270
派手な—地味な	.689	.129	.414
興奮した—冷静な	.681	.096	.141
陽気な—陰気な	.677	.375	.105
明るい—暗い	.637	.400	.183
暖かい—冷たい	.467	.122	-.388
清潔な—不潔な	.145	.836	.084
良い—悪い	.149	.732	.058
澄んだ—濁った	.304	.500	.372
はっきりした—あいまいな	.341	.348	.562
シャープな—ソフトな	.150	.074	.511

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法
 a. 5回の反復で回転が収束しました。

男性のスライド2枚目は、第1因子を「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「陽気な」「明るい」「暖かい」という気分が暖かく元気な印象から「高揚因子」とした。第2因子は「清潔な」「良い」「澄んだ」という因子から「さわやか因子」とし、第3因子は「はっきりした」「シャープな」という鋭さを感じさせられる因子から「鋭利因子」とした。

図 67 男性のスライド2枚目

	因子		
	1	2	3
興奮した—冷静な	.806	.065	-.007
にぎやかな—静かな	.759	.294	.212
陽気な—陰気な	.590	.391	.019
荒々しい—繊細な	.520	-.062	.036
澄んだ—濁った	.098	.741	-.016
良い—悪い	.132	.733	.217
清潔な—不潔な	.015	.651	.404
派手な—地味な	.610	.122	.654
はっきりした—あいまいな	.114	.530	.646
濃い—薄い	-.031	.063	.628
鮮やかな—くすんだ	.393	.494	.510

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 68 男性のスライド 3 枚目

	因子			
	1	2	3	4
興奮した—冷静な	.778	.109	.103	-.256
にぎやかな—静かな	.774	.074	.064	.089
派手な—地味な	.728	.128	-.050	.104
陽気な—陰気な	.563	.495	-.220	-.155
明るい—暗い	.486	.470	-.350	.166
良い—悪い	-.029	.745	-.282	-.093
清潔な—不潔な	.026	.705	-.118	-.527
澄んだ—濁った	.392	.591	-.343	-.001
暖かい—冷たい	.277	.580	.051	.147
重い—軽い	-.218	-.184	.812	.289
荒々しい—繊細な	.161	-.125	.551	.029
濃い—薄い	.011	.000	.131	.667

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 69 男性のスライド 4 枚目

	因子	
	1	2
派手な—地味な	.868	-.061
陽気な—陰気な	.705	.291
鮮やかな—くすんだ	.664	.263
はっきりした—あいまいな	.663	.260
にぎやかな—静かな	.641	-.022
明るい—暗い	.590	.483
清潔な—不潔な	.332	.770
澄んだ—濁った	.151	.718
濃い—薄い	.206	-.685
重い—軽い	-.206	-.548
良い—悪い	.439	.473

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 70 男性のスライド 5 枚目

男性のスライド 3 枚目は、第 1 因子を「興奮した」「にぎやかな」「陽気な」「荒々しい」という気持ちが高ぶっているイメージから「高揚因子」とした。第 2 因子は「澄んだ」「良い」「清潔な」という清々しく良い印象を受ける因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「派手な」「はっきりした」「濃い」「鮮やかな」から「ゴージャス因子」とした。

男性のスライド 4 枚目は、第 1 因子を「興奮した」「にぎやかな」「派手な」「陽気な」「明るい」という因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「良い」「清潔な」「澄んだ」「暖かい」という因子から「安心因子」とし、第 3 因子は「重い」「荒々しい」という因子から「重量因子」、第 4 因子は「濃い」という因子から「濃密因子」とした。

男性のスライド 5 枚目は、第 1 因子を「派手な」「陽気な」「鮮やかな」「はっきりした」「にぎやかな」「明るい」という因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「清潔な」「澄んだ」「薄い」「軽い」「良い」というみずみずしくさわやかで良い印象を受けるイメージから「さわやか因子」とした。

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
澄んだ—濁った	.800	.157	.182
清潔な—不潔な	.740	.188	.055
良い—悪い	.737	.187	.224
明るい—暗い	.586	.408	.316
にぎやかな—静かな	.539	-.073	-.157
重い—軽い	-.523	-.100	-.051
鮮やかな—くすんだ	.502	.335	.475
暖かい—冷たい	.185	.982	-.002
興奮した—冷静な	.099	.548	.323
陽気な—陰気な	.322	.324	.705
派手な—地味な	.145	.135	.657
荒々しい—繊細な	-.118	-.025	.528

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 71 男性のスライド 6 枚目

男性のスライド 6 枚目は、第 1 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「澄んだ」「清潔な」「良い」「明るい」「賑やかな」「軽い」「鮮やかな」という因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「暖かい」「興奮した」という因子から「情熱因子」とし、第 3 因子は「陽気な」「派手な」「荒々しい」という因子から「ゴージャス因子」とした。

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
鮮やかな—くすんだ	.877	.045	.099
明るい—暗い	.754	.269	.191
清潔な—不潔な	.618	-.137	.499
良い—悪い	.615	.249	.276
はっきりした—あいまいな	.605	.330	-.118
澄んだ—濁った	.465	-.055	.100
にぎやかな—静かな	.152	.820	.208
派手な—地味な	.357	.652	.145
濃い—薄い	.101	.559	-.283
荒々しい—繊細な	-.119	.531	-.194
重い—軽い	-.195	.051	-.750

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 72 男性のスライド 7 枚目

男性のスライド 7 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「明るい」「清潔な」「良い」「はっきりした」「澄んだ」という因子から「さわやか因子」とした。第 2 因子は「にぎやかな」「派手な」「濃い」「荒々しい」という因子から「ゴージャス因子」とし、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているので「軽い」という因子から「軽さ因子」とした。

回転後の因子行列 ^a				
	因子			
	1	2	3	4
陽気な—陰気な	.771	.028	-.070	.251
鮮やかな—くすんだ	.749	.199	-.162	-.006
明るい—暗い	.684	.113	-.373	.087
良い—悪い	.676	.297	.020	-.124
暖かい—冷たい	.666	-.060	.063	.019
にぎやかな—静かな	.549	.212	.237	.223
澄んだ—濁った	.493	.332	-.308	-.065
シャープな—ソフトな	-.110	.640	.210	.256
清潔な—不潔な	.542	.592	-.171	-.115
はっきりした—あいまいな	.247	.568	-.153	.079
重い—軽い	-.295	-.078	.750	-.044
濃い—薄い	.142	.025	.578	-.121
興奮した—冷静な	.143	.199	-.232	.941

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 8 回の反復で回転が収束しました。

図 73 男性のスライド 8 枚目

男性のスライド 8 枚目は、第 1 因子を「陽気な」「鮮やかな」「明るい」「良い」「暖かい」「にぎやかな」「澄んだ」という因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「シャープな」「清潔な」「はっきりした」という因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「重い」「濃い」という因子から「重量因子」、第 4 因子は「興奮因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
鮮やかな—くすんだ	.853	.219	.243
はっきりした—あいまいな	.837	-.006	.135
清潔な—不潔な	.825	.036	-.563
良い—悪い	.630	.266	-.198
明るい—暗い	.625	.348	.205
澄んだ—濁った	.618	.209	-.091
シャープな—ソフトな	.523	.371	-.023
派手な—地味な	.297	.749	.065
にぎやかな—静かな	.378	.738	.140
興奮した—冷静な	.049	.631	.047
陽気な—陰気な	.419	.554	.101
重い—軽い	.032	-.468	.347
荒々しい—繊細な	.022	.087	.498

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うパトリマックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 74 男性のスライド 9 枚目

男性のスライド 9 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「はっきりした」「清潔な」「良い」「明るい」「澄んだ」「シャープな」という因子から「活力因子」とした。第 2 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「派手な」「にぎやかな」「興奮した」「陽気な」「軽い」という因子から「高揚因子」とし、第 3 因子は「荒々しき因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
にぎやかな—静かな	.837	.082	-.063
派手な—地味な	.743	.296	.167
興奮した—冷静な	.705	.053	-.026
良い—悪い	-.030	.865	-.043
清潔な—不潔な	.164	.831	-.102
陽気な—陰気な	.471	.605	-.079
暖かい—冷たい	.405	.465	.167
重い—軽い	-.346	-.363	.865
濃い—薄い	.148	.068	.471

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うパトリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 75 男性のスライド 10 枚目

男性のスライド 10 枚目は、第 1 因子を「にぎやかな」「派手な」「興奮した」という元気で活発的な印象を受ける因子から「活力因子」とした。第 2 因子は「良い」「清潔な」「陽気な」「暖かい」という清々しく、気持ちが暖かくなるようなイメージから「高揚因子」とし、第 3 因子は「重い」「濃い」という因子から「重量因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子			
	1	2	3	4
清潔な—不潔な	.841	.093	.209	-.246
良い—悪い	.590	.388	-.173	-.097
澄んだ—濁った	.525	.031	-.094	.237
はっきりした—あいまいな	.468	.012	.303	.138
鮮やかな—くすんだ	.049	.867	.157	.058
明るい—暗い	.100	.615	.112	.152
にぎやかな—静かな	.041	.239	.777	.027
シャープな—ソフトな	.559	-.112	.318	.611
荒々しい—繊細な	-.040	.178	-.004	.541

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うパトリマックス法
 a. 11 回の反復で回転が収束しました。

図 76 男性のスライド 11 枚目

男性のスライド 11 枚目は、第 1 因子を「清潔な」「良い」「澄んだ」「はっきりした」という清潔感あふれる良い印象を受けるイメージから「さわやか因子」とした。第 2 因子は「鮮やかな」「明るい」という因子から「明確因子」とし、第 3 因子は「にぎやかさ因子」とした。第 4 因子は「シャープな」「荒々しい」という因子から「鋭さ因子」とした。

男性のスライド 12 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

女性 32%

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
派手な—地味な	.826	.140	.047
にぎやかな—静かな	.760	.138	.247
興奮した—冷静な	.618	.084	.328
明るい—暗い	.611	.390	.264
陽気な—陰気な	.599	.355	.347
はっきりした—あいまいな	.567	.387	-.143
清潔な—不潔な	.135	.839	.124
良い—悪い	.145	.723	.097
澄んだ—濁った	.454	.528	-.080
暖かい—冷たい	.138	.055	.638

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 4 回の反復で回転が収束しました。

図 77 女性の全体

次に、女性のスライド 1~12 全体のデータは、第 1 因子を「派手な」「にぎやかな」「興奮した」「明るい」「陽気な」「はっきりした」という全体的に華やかさを感じる因子から「華やかさ因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「良い」「澄んだ」という因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「暖かい」という因子から「温暖因子」とした。

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
派手な—地味な	.818	.201	.195
陽気な—陰気な	.736	.068	-.250
はっきりした—あいまいな	.723	.192	.321
明るい—暗い	.701	.265	-.045
にぎやかな—静かな	.624	.118	.161
鮮やかな—くすんだ	.467	.390	.088
清潔な—不潔な	.217	.923	-.176
良い—悪い	.246	.749	-.157
重い—軽い	-.202	-.290	.626
荒々しい—繊細な	.248	-.311	.616
興奮した—冷静な	.315	.269	.505

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 5 回の反復で回転が収束しました。

図 78 女性のスライド 1 枚目

女性のスライド 1 枚目は、第 1 因子を「派手な」「陽気な」「はっきりした」「明るい」「にぎやかな」「鮮やかな」という明るさや元気さを感じる因子から「華やかさ因子」とした。第 2 因子は「清潔な」「良い」という清々しさを感じる因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「重い」「荒々しい」「興奮した」という因子から「重量因子」とした。

回転後の因子行列 ^a				
	因子			
	1	2	3	4
明るい—暗い	.831	.210	.124	-.004
鮮やかな—くすんだ	.665	.451	.108	.263
陽気な—陰気な	.595	.397	.459	.205
重い—軽い	-.501	.041	-.149	-.300
派手な—地味な	.248	.794	.469	.125
にぎやかな—静かな	.434	.628	.086	-.009
荒々しい—繊細な	.031	.547	-.112	-.055
清潔な—不潔な	.193	-.181	.840	.140
はっきりした—あいまいな	.129	.349	.652	.250
良い—悪い	.275	-.041	.323	.841
澄んだ—濁った	.043	.028	.049	.557

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 79 女性のスライド 2 枚目

女性のスライド 2 枚目は、第 1 因子が因子量にマイナスが付いているものがあり「明るい」「鮮やかな」「陽気な」「軽い」という因子から「陽気因子」とした。第 2 因子は「派手な」「にぎやかな」「荒々しい」という因子から「活力因子」とし、第 3 因子は「清潔な」「はっきりした」という因子から「明確因子」、第 4 因子は「さわやか因子」とした。

女性のスライド 3 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

回転後の因子行列 ^a		
	因子	
	1	2
にぎやかな—静かな	.799	-.015
興奮した—冷静な	.723	.097
派手な—地味な	.722	.126
陽気な—陰気な	.590	.502
重い—軽い	-.128	-.697
澄んだ—濁った	.419	.657
清潔な—不潔な	.120	.570
荒々しい—繊細な	.261	-.546
明るい—暗い	.503	.532

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリタックス法
 a. 3 回の反復で回転が収束しました。

図 80 女性のスライド 4 枚目

女性のスライド 4 枚目は、第 1 因子を「にぎやかな」「興奮した」「派手な」「陽気な」という元気で活動的な印象を受ける因子から「活力因子」とした。第 2 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「軽い」「澄んだ」「清潔な」「繊細な」「明るい」という軽やかで清潔さがあり清々しいイメージを受けることから「さわやか因子」とした。

回転後の因子行列 ^a				
	因子			
	1	2	3	4
はっきりした—あいまいな	.779	.138	-.186	.175
澄んだ—濁った	.778	.349	-.031	-.242
派手な—地味な	.760	-.040	.164	.051
鮮やかな—くすんだ	.746	.205	-.121	.192
にぎやかな—静かな	.644	.387	.109	.232
明るい—暗い	.566	.160	-.369	.190
陽気な—陰気な	.497	.311	-.160	.378
興奮した—冷静な	.400	.327	.132	.020
清潔な—不潔な	.389	.860	-.184	.273
重い—軽い	-.227	-.720	.197	.218
シャープな—ソフトな	.084	.185	.826	.023
良い—悪い	.259	.322	-.628	.088
荒々しい—繊細な	.008	-.161	.545	-.025
暖かい—冷たい	.097	.120	-.206	.759
濃い—薄い	.202	-.346	.331	.670

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリタックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 81 女性のスライド 5 枚目

女性のスライド 5 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「明るい」「はっきりした」という因子から「明確因子」とした。第 2 因子は「暖かい」「興奮した」「陽気な」という因子から「情熱因子」とし、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「繊細な」「良い」「軽い」「清潔な」という因子から「さわやか因子」とした。

回転後の因子行列 ^a				
	因子			
	1	2	3	4
はっきりした—あいまいな	.779	.138	-.186	.175
澄んだ—濁った	.778	.349	-.031	-.242
派手な—地味な	.760	-.040	.164	.051
鮮やかな—くすんだ	.746	.205	-.121	.192
にぎやかな—静かな	.644	.387	.109	.232
明るい—暗い	.566	.160	-.369	.190
陽気な—陰気な	.497	.311	-.160	.378
興奮した—冷静な	.400	.327	.132	.020
清潔な—不潔な	.389	.860	-.184	.273
重い—軽い	-.227	-.720	.197	.218
シャープな—ソフトな	.084	.185	.826	.023
良い—悪い	.259	.322	-.628	.088
荒々しい—繊細な	.008	-.161	.545	-.025
暖かい—冷たい	.097	.120	-.206	.759
濃い—薄い	.202	-.346	.331	.670

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリタックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 82 女性のスライド 6 枚目

女性のスライド 6 枚目は、第 1 因子を「はっきりした」「澄んだ」「派手な」「鮮やかな」「にぎやかな」「明るい」「陽気な」「興奮した」という因子から「活力因子」と氏ら。第 2、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり、第 2 因子は「清潔な」「軽い」から「さわやかさ」、第 3 因子は「シャープな」「悪い」「荒々しい」から「とげとげしさ因子」とし、第 4 因子は「暖かい」「濃い」という因子から「濃厚因子」とした。

女性のスライド 7 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	1	2	3
鮮やかな—くすんだ	.906	-.275	.025
明るい—暗い	.761	.370	.033
派手な—地味な	.750	.142	.317
はっきりした—あいまいな	.740	-.445	.312
にぎやかな—静かな	.706	.212	.189
澄んだ—濁った	.687	-.204	.031
シャープな—ソフトな	.651	-.146	.087
清潔な—不潔な	.630	.113	-.080
陽気な—陰気な	.582	.151	.065
良い—悪い	.550	-.024	-.121
興奮した—冷静な	.264	.595	.287
暖かい—冷たい	.085	.532	.002
濃い—薄い	.461	-.500	.174
荒々しい—繊細な	-.015	.063	.997

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 7 回の反復で回転が収束しました。

図 83 女性のスライド 8 枚目

女性のスライド 9 枚目は、因子の抽出ができず、エラーとなってしまった。

回転後の因子行列 ^a				
	因子			
	1	2	3	4
にぎやかな—静かな	.917	-.082	.015	.063
興奮した—冷静な	.787	.201	-.207	.125
陽気な—陰気な	.722	.338	.145	-.298
派手な—地味な	.702	-.088	.167	.173
鮮やかな—くすんだ	.648	.448	.393	-.064
明るい—暗い	.500	.450	-.037	-.169
清潔な—不潔な	.065	.839	.060	-.229
良い—悪い	.267	.756	.135	-.132
荒々しい—繊細な	.409	-.598	.344	.039
はっきりした—あいまいな	.154	.021	.794	-.117
シャープな—ソフトな	-.012	.074	.673	.043
暖かい—冷たい	.465	.345	-.481	-.080
濃い—薄い	.223	-.069	-.112	.819
重い—軽い	-.149	-.374	.104	.790

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 6 回の反復で回転が収束しました。

図 84 女性のスライド 10 枚目

回転後の因子行列 ^a				
	因子			
	1	2	3	4
にぎやかな—静かな	.846	.208	.029	.327
派手な—地味な	.827	.141	-.278	-.054
明るい—暗い	.739	.208	-.039	-.200
暖かい—冷たい	.644	.041	.132	.023
はっきりした—あいまいな	.571	.431	.422	-.138
陽気な—陰気な	.567	.384	.436	-.300
濃い—薄い	.546	.151	.251	.138
澄んだ—濁った	.092	.893	.137	.075
鮮やかな—くすんだ	.414	.662	.356	.076
清潔な—不潔な	.187	.505	-.073	-.467
興奮した—冷静な	.605	.098	.702	-.101
シャープな—ソフトな	-.093	.216	.653	.358
荒々しい—繊細な	.438	.055	.580	.167
重い—軽い	.082	.027	.086	.520

因子抽出法: 最尤法
 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法
 a. 9 回の反復で回転が収束しました。

図 85 女性のスライド 11 枚目

女性のスライド 8 枚目は、第 1 因子を「鮮やかな」「明るい」「派手な」「はっきりした」「にぎやかな」「澄んだ」「シャープな」「清潔な」「陽気な」「良い」という因子から「活力因子」とした。第 2 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり「興奮した」「暖かい」「薄い」という因子から「熱気」因子、第 3 因子は「荒々しき因子」とした。

女性のスライド 10 枚目は、第 1 因子を「にぎやかな」「興奮した」「陽気な」「派手な」などという因子から「活力因子」とした。第 2、第 3 因子は因子量にマイナスが付いているものがあり第 2 因子は「清潔な」「良い」「繊細な」から「さわやか因子」、第 3 因子は「はっきりした」「シャープな」などから「明確因子」、第 4 因子は「重量因子」とした。

女性のスライド 11 枚目は、第 1 因子を「にぎやかな」「派手な」「明るい」「暖かい」「はっきりした」などの因子から「高揚因子」とした。第 2 因子は「澄んだ」「鮮やかな」「清潔な」という因子から「さわやか因子」とし、第 3 因子は「興奮した」「シャープな」「荒々しい」という因子から「鋭さ因子」、第 4 因子は「重量因子」とした。

回転後の因子行列^a

	因子		
	1	2	3
清潔な—不潔な	.925	.020	-.375
良い—悪い	.762	.270	-.193
陽気な—陰気な	.697	.402	.062
はっきりした—あいまいな	.677	.315	.112
明るい—暗い	.499	.483	-.265
にぎやかな—静かな	.272	.850	-.146
派手な—地味な	.086	.782	.027
興奮した—冷静な	.392	.617	.096
澄んだ—濁った	.345	.458	-.289
荒々しい—繊細な	-.095	-.032	.994

因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 4 回の反復で回転が収束しました。

女性のスライド 12 枚目は、第 1 因子を「清潔な」「良い」「陽気な」「はっきりした」「明るい」という元気で活発なイメージから「活力因子」とした。第 2 因子は「にぎやかな」「派手な」「興奮した」「澄んだ」という興奮して気分が高まっているイメージから「高揚因子」とし、第 3 因子は「荒々しさ因子」とした。

図 86 女性のスライド 12 枚目

5.2 二色配色の好き嫌いアンケート

12 の二色配色に関する好き嫌いアンケートの結果を、全体、男女別、平均・安定・不安定別に分けて円グラフにまとめた。

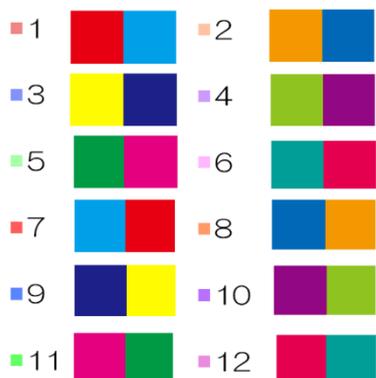


図 87 以下の円グラフの色が指す配色と番号

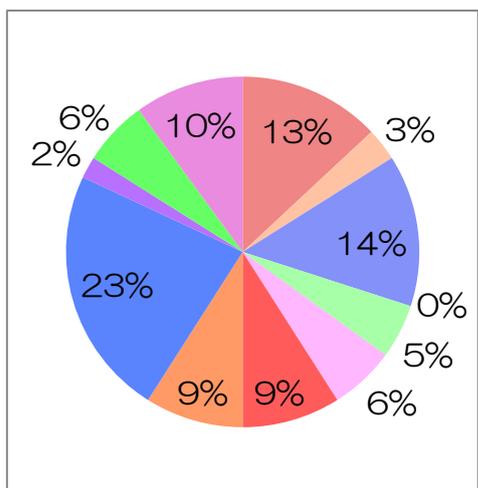


図 88 全体(好き)

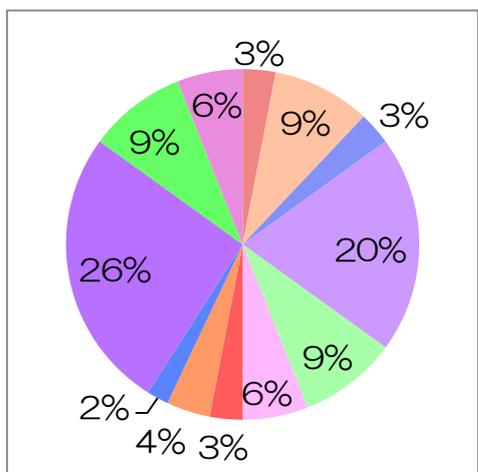


図 89 全体(嫌い)

上位 3 位までの配色

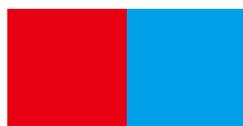
⑨



③



①



⑩



④



②⑤



⑪



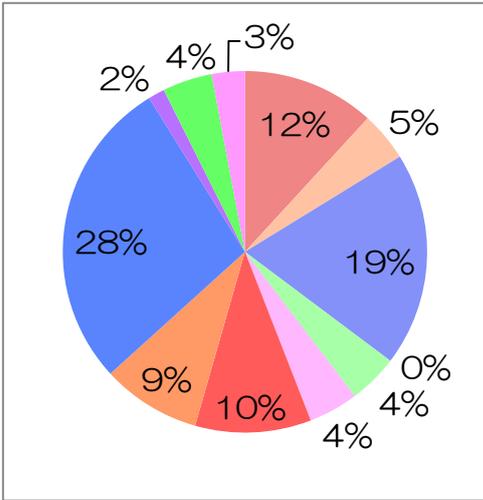


図 90 男性(好き)

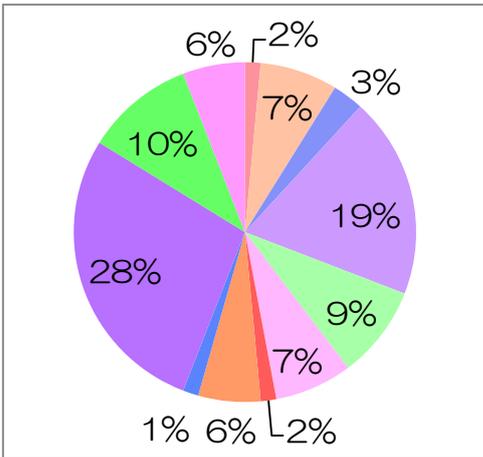
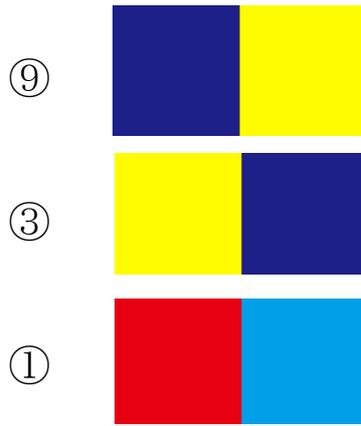


図 91 男性(嫌い)

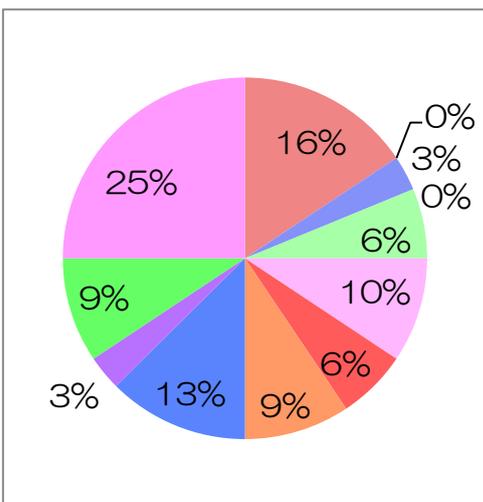
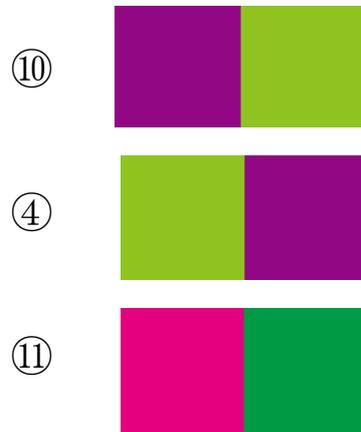
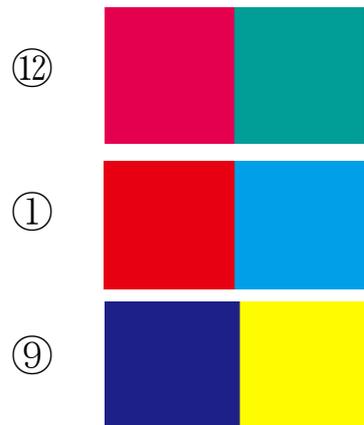


図 92 女性(好き)



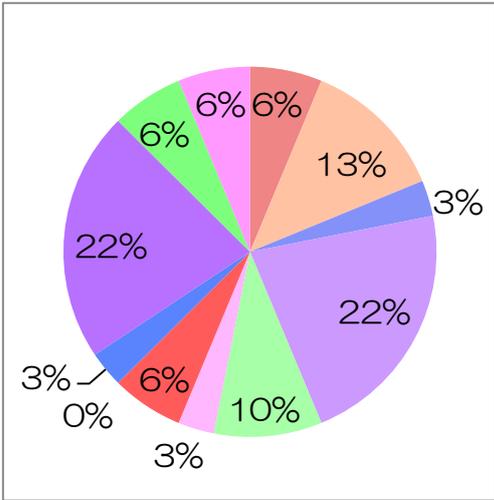


図 93 女性(嫌い)

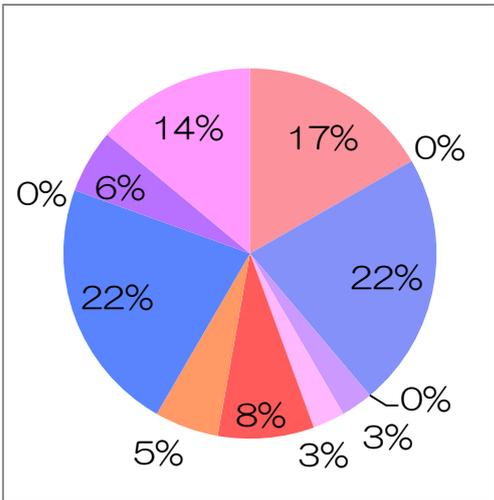


図 94 平均(好き)

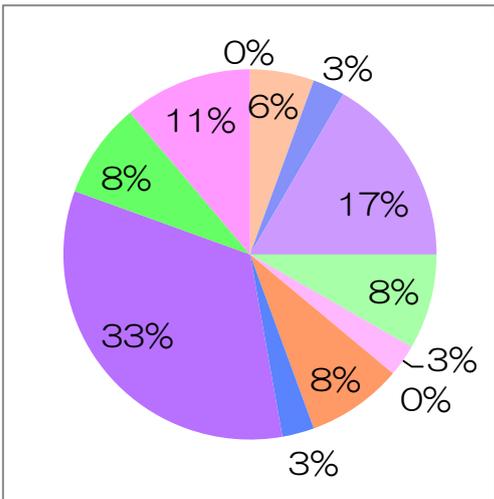
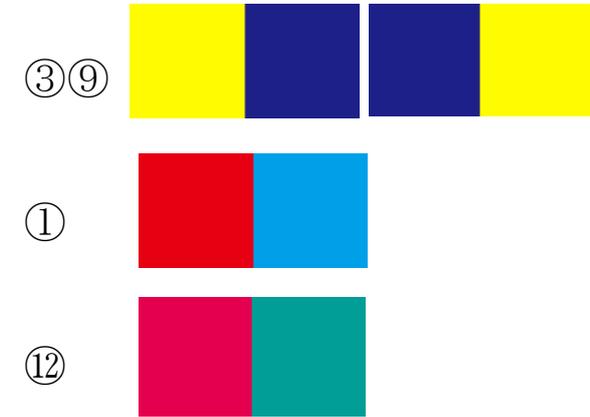
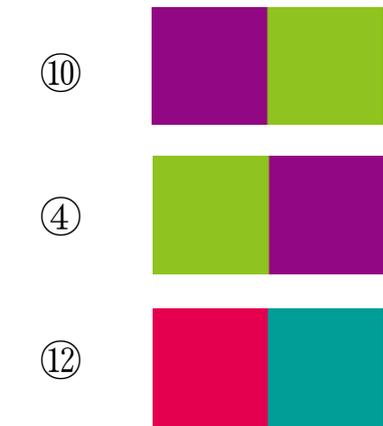


図 95 平均(嫌い)



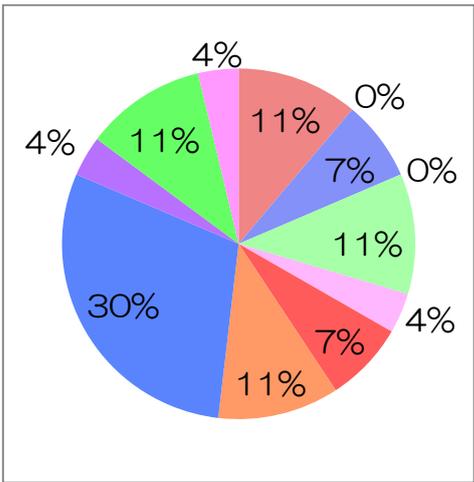


図 96 安定(好き)

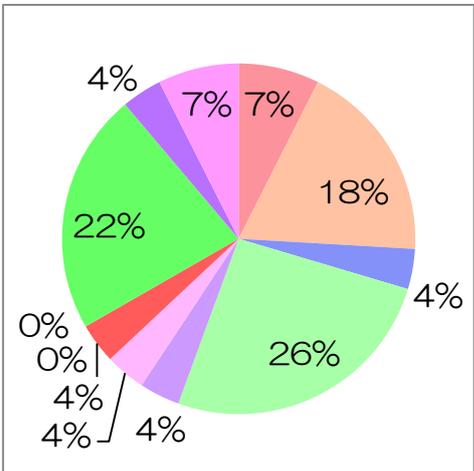
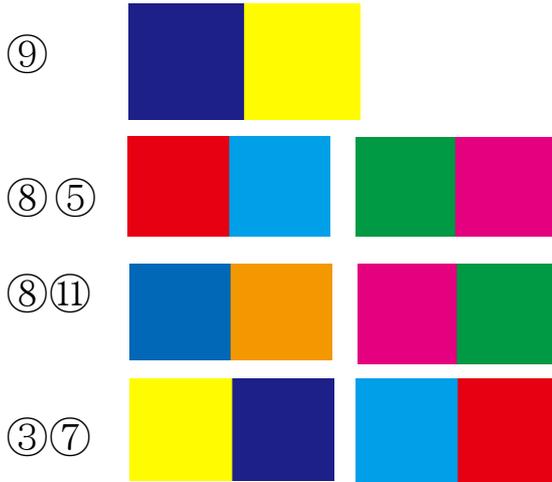


図 97 安定(嫌い)

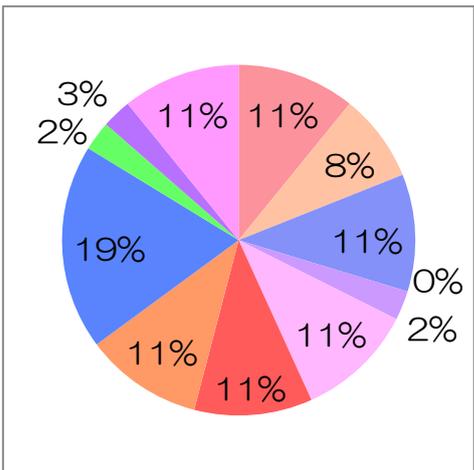
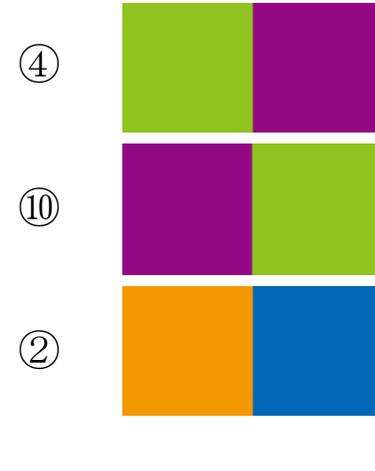
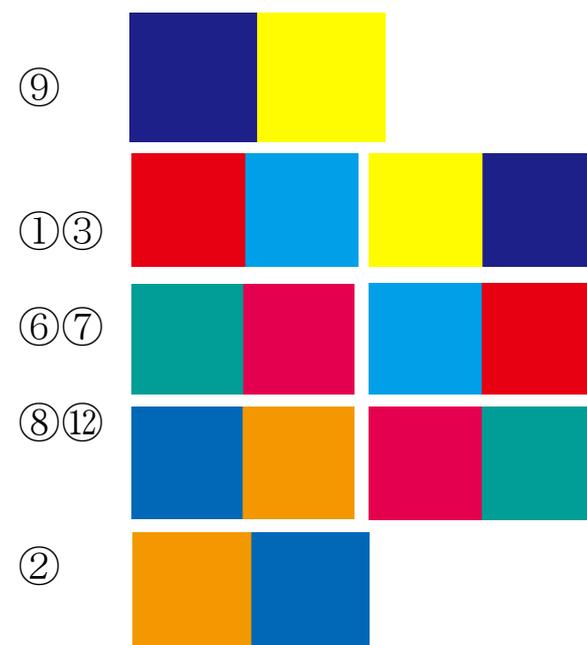


図 98 不安定(好き)



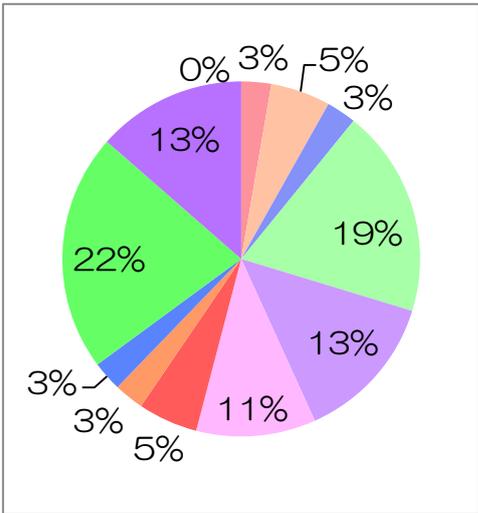


図 99 不安定(嫌い)



第6章 考察

因子分析の結果をすべて見ていくと、安定した因子が得られたと言える。全体的に「活力因子」「さわやか因子」「重量因子」「ゴージャス因子」「明確因子」「高揚因子」がどの分析結果にも多く見られた。中でも「活力因子」が第1因子名になることが極めて多い結果となった。元気で活発的、行動力がある印象を受けた因子からつけた因子名なので、本研究の二色配色のスライド1~12から100人の被験者は「元気」「派手」「にぎやか」「陽気」などというポジティブな印象を受けたと考えられる。また、第2因子には「さわやか因子」や「清々しき因子」というような、「清潔な」「澄んだ」「良い」「軽い」などの因子から因子名を付けたものが多くあり、色の綺麗さや二色配色における色の印象の良さを感じているのではないかと推測できる。第3因子はスライドや性格の型、男女によって異なる印象を受けていると言える。「重量因子」や「ゴージャス因子」、「鋭き因子」、「荒々しき因子」など、二色配色におけるそれぞれの配色の特徴が1番顕著に現れたのではないかと推測される。

YG性格検査の結果をもとにした「平均型」「安定型」「不安定型」別に、因子分析の結果を見ると、スライドごとの「軽い—重い」の結果が「安定型」と「不安定型」で正反対になっていることが分かる。このことから、「安定型」「不安定型」の二色配色に対して感じている色の印象、軽重の感じ方が異なると言える。一般的に、気分が沈んでいる人やうつ傾向のある人はピンクや緑を好む傾向にあると言われているが、本研究の因子分析の結果からはそのような傾向は見られなかった。このことから「うつ傾向のある人にはピンクと緑が好まれる」ということに疑問を持つ結果となった。

また、男女別に結果を見ると、2.4男女の色彩嗜好の差に述べてある通り、男性は青と黄色の組み合わせの配色を最もよく好んでいるという結果となり、女性はピンクと緑の組み合わせの配色を好んでいるという結果となった。個人における色彩嗜好には差があることは絶対だが、統計的にみると性格の「平均」「安定」「不安定」にはあまり左右されず、やはり男性は青や黄色を好ましく感じ、女性はピンクや緑を好ましく感じると言える。また、男女で因子分析の結果を比較してみると、男性は全ての二色配色を「軽い」と感じていたのに対し、女性はスライドにより「軽い」と感じている配色と「重い」と感じている配色があった。また、同じ色の組み合わせでも、色の位置を反転させた配色に感じる軽重が異なるものもあった。これらのことから、男性は黒、濃い灰色、紺などの暗い色を「濃い色」と認識しているのに対し、女性は同じ色を使っている位置が異なると感じ方も異なることから、色を見たときに受ける印象や、気分から色を感じ取っているということが推測できる。

第7章 まとめ

現在、色彩感情の効果が注目されている。「うつ傾向のある人はピンクと緑が好まれる」と一般的には言われているが、本研究ではそのような結果ではなかった。デジタル化が進み、多くの場面で表現できる色彩が増えたこともあり、私たちが普段目にしていてる色の量も増えるようになった。その結果、以前に比べ好きな色、嫌いな色の個人差が大きくなったのではないかと考えられる。一人一人の個人に対し、その人のためだけの商品を提案することは難しいが、本研究から、性格の型別ごとに色に対する軽重が異なることという結果となったので、1つの商品を作るにしても、「目立つから赤」「気分を落ち着けたいから緑」というのではなく、もっと個人が自分の性格やその時の気分に合わせて選択できるよう、色の選択肢を増やしていくことが求められる。

また、男女差を考えると、男性ははっきりとした色を好み、女性は感情で色を見るため、あまりはっきりとした色よりも淡い、優しい色を好む傾向にある。配色の好き嫌いアンケートの結果、男性は青と黄色の組み合わせ、女性はピンクと緑の組み合わせが1番好きな配色となったが、全体の結果を見ても、「安定型」「不安定型」の結果を見ても、1番好きな配色は青と黄色のペアという結果になっている。個人差もあると思うが、これまでの色に対する固定概念をはずし、よりその色から伝えたいことをニーズに合わせて考え、実現していく必要があると言える。

第8章 今後の課題

本研究では100人の被験者にアンケートに協力して頂き、データの信頼性をたかめることに力を入れたが、実際にデータを分析してみると、色の数が12色と少し少なかったように思う。赤なら赤、青なら青ごとに、色には濃い薄い、明るい暗いがあり、もっと色の数を絞り明度や彩度の意識を高めた研究を行うこともできると考える。

また、SD法を用い配色に対する印象を表現する形容詞をこちらですでに用意し、5段階で評価して頂いたが、色の感じ方には個人差が大きく影響し、同じ色でも感じ方が一人一人異なることから、SD法で用いる形容詞の数をもっと増やす、または自由回答にした方がより個人の感じ方が強く結果に出る研究にできたのではないか。今後の個人における色彩嗜好の差の研究に生かしていきたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、熱心にご指導頂きました東洋大学総合情報学部総合情報学科の加藤千恵子助教授をはじめ、杉本富利教授、土田賢省教授、菅原徹講師に深く感謝致します。

また、共に研究を行って参りました東洋大学総合情報学部総合情報学科心と体とITゼミの皆様方、本研究にご協力下さった他研究室の方々、友人、並びに様々なアドバイスを下さり私達を支えて下さった多くの方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

参考文献

- [1] 高橋淳也,照井良平, “癒し”を感じる CG アニメーションの制作 , 芸術家学会論文誌, Vol.9, No.3 (2010)
- [2] 伊東久美子,大山正, 異色相間の二色配色の感情効果, 日本色彩学会誌, Vol.29, No.4 (2005)
- [3] 城 一夫,(2009)「色のしくみ」(新星出版)p. 22
- [4] 色の意味 カラーセラピー色診断
<http://www.revives.jp/mean.cfm>
- [5] 高坂美紀,(2003)「色で売る2」(ビジネス社)pp.71~89
- [6] 色相環
<http://rock77.fc2web.com/main/color/color1-2.html>
- [7] 配色用語と実際
<http://www.colordream.net/combination.htm>
- [8] うつ病とは
<http://www.bl.mmtr.or.jp/~shinjou/utu4.htm>
- [9] 鬱病と生きるために
<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Kenji/2724/text/utu.html>
- [10] 厚生労働省,みんなのメンタルヘルス総合サイト,うつ病
http://www.mhlw.go.jp/kokoro/disease_detail/1_02_02depressiv.html
- [11] 株式会社 日本化学技術研修所, SD 法(SD プロファイルとは)
<http://www.i-juse.co.jp/statistics/product/func/ma/sd-profile.html>
- [12] YG 性格検査
<http://homepage1.nifty.com/hardrock/YG.htm>
- [13] 株式会社ウイズダムマネジメント, 性格タイプ.COM
http://www.seikakutype.com/free_9_5.html